

1100迄 (1445件)

1051年-05:30|インド| |||<即位>チョーラ朝国王「ラジエント」2世 (~1063年)
1051年-02:00|ウクライナ| |||キエフ洞窟修道院のおこり
1051年-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サウオイ伯「アメー」1世
1051年-01:00|ドイツ| |||<死去>ノルマルク辺境伯「ヘルムハルト」2世
1051年-01:00|オランダ| |||<就任>エノー伯「ホートゥアン」1世 (~10700717死去)
1051年-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サウオイ伯「オットー」 (~1057年死去)
1051年-01:00|フランス| |||<就任>ナント伯「Judith」 (~1063年) 共同統治
1051年-01:00|ドイツ| |||<就任>ノルマルク辺境伯「ヴィルヘルム」 (~10560910死去)
1051年-01:00|スペイン| |||<即位>アルメリア・タイファ「Abu Yahya Muhammad ben Ma'n」
1051年-01:00|スペイン| |||<即位>ニエブラ・タイファ「Abu Nars Fath」 (~1053年)
1051年2月3日-08:00|中国| ||西夏・天祐垂聖1年; 契丹・重熙19年12月19日|西夏、契丹に使を遣わし、旧に依り臣属を乞う
1051年2月21日-09:00|日本| ||永承6年1月8日|<死去>敦明親王、皇族(生年994年)
1051年3月25日-01:00|フランス| |||<死去>メヌ伯「ヒュー」4世
1051年3月25日-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「ハーバート」2世 (~10620309死去)
1051年4月27日-01:00|フランス| |||<死去>ブロワ・アンソ伯「ワルク・ヘルラン」
1051年4月27日-01:00|フランス| |||<就任>ブロワ・アンソ伯「ギヨーム・ヘルラン」ワルク・ヘルランの子 (~1093年死去)、'ジヨワ」2世
ワルク・ヘルランの子 (~1067年)
1051年8月4日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|永承6年6月25日|源頼義、相模国鎌倉郡由比郷に石清水八幡宮を勧請
/幡を亀谷の山上に納める
1051年8月10日-01:00|イタリア| |||<死去>ブッリャ伯「ドロ」 (~1057.8死去)
1051年8月10日-01:00|イタリア| |||<就任>ブッリャ伯「ウンフレド」ドロの弟 (~1057.8死去)
1051年10月8日-08:00|中国| ||契丹・重熙20年9月|また条制を更定し頒かつ
1051年11月20日-09:00|日本| 宮城県大崎市|永承6年10月14日|<鬼切部の戦い>陸奥守・藤原登任が八千の兵を出
して安部頼良の懲罰を試み、陸奥国玉造郡鬼切部で戦い大敗(前九年の役始まる)
1052年-08:00|インドネシア| |||<即位>ジャランガラ・マハラジャ「Mapanji Alanjung Ahyes」 (~1059年)
1052年-05:30|インド/スリランカ| |||<死去>チョーラ朝国王「Rajadhiraja Chola」
1052年-05:30|インド/スリランカ| |||<即位>チョーラ朝国王「ラジエント」2世「ラジエント」1世の息子 (~1063年死去)
1052年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>西カラハン朝ハン「Tamghach Khan Ibrahim」 (~1068年死去)
1052年-04:30|アフガニスタン/インド| |||<即位>ガズナ朝君主「アブー・サイード・トゥグルル」 (~1053年死去)
1052年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロド公「イジャスラフ・ヤロスラフ」 (~1054年)
1052年-01:00|スペイン| |||<就任>ヘサル伯「William」2世 (~1066年死去)
1052年-01:00|フランス| |||<就任>モンペリアル伯「ルイ」 (~1071年)
1052年-01:00|スペイン| |||<即位>アルメリア・タイファ「Abu 'Utba from」 (~1054年)
1052年-01:00|スペイン| |||<即位>カモチ・タイファ「Al-'Aziz」 (~1066年)
1052年-01:00|イタリア| |||<廃位>アマルフィ公「ガイム」2世
1052年-01:00|イタリア| |||<復位>アマルフィ公「ジョン」2世 (~1069年死去)
1052年 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトゥカレ伯「メント」 (~10710118死去)
1052年 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトゥカレ伯「ヌノ・メンデス」 (~10710118死去)
1052年2月18日-09:00|日本| ||永承7年1月15日|月食起きる
1052年3月15日-09:00|日本| 福岡県福岡市東区|永承7年2月12日|香椎宮焼失
1052年4月29日-09:00|日本| 京都府宇治市|永承7年3月28日|関白藤原頼通が宇治の別荘を寺院とし平等院を創建
1052年5月6日-01:00|イタリア| |||<死去>スレート公・マントヴァ伯「ボニファチ」3世 兼トスカナ辺境伯「ボニファチ」4世 暗殺され
る
1052年5月6日-01:00|イタリア| |||<就任>トスカナ辺境伯「フェデリコ」ボニファチ4世の子 (~1055.7), 「マティルダ」ボニファチ4世
の娘 (~1056年), 「ヘアトリチ」ティバールボニファチ4世の妻でフェデリコとマティルダの摂政 (~1076年)
1052年5月6日-01:00|イタリア| |||<就任>マントヴァ伯「マティルダ」 (~11150724死去)
1052年5月6日-01:00|イタリア| |||<即位>スレート公「フレデリック」 (~1055.7死去), 「ヘアトリス」摂政 (~1055年)
1052年5月31日-08:00|中国| ||宋・皇祐4年5月|農智高がヨウ州を占領し仁恵皇帝と称し{大南}建国「啓歴(1052-1
053)」広州を包囲
1052年6月2日-01:00|イタリア| |||<死去>アマルフィ公・サレルノ公「ガイム」4世 暗殺される
1052年6月7日-01:00|イタリア| |||<即位>サレルノ公「ギサル」2世 (~1077年)
1052年6月28日-09:00|日本| 京都府京都市北区|永承7年5月29日|紫野に祇園社創建
1052年7月29日-08:00|中国| ||宋・皇祐4年7月|狄青が農智高討伐/農智高は撤退
1052年9月20日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|永承7年8月25日|長谷寺焼失
1052年10月4日-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロド公「イジャスラフ・ヤロスラフ」 (~1054年)
1053年-05:00|パキスタン| |||アッソット国がガズナ朝帝国から離脱
1053年-04:30|アフガニスタン/インド| |||<死去>ガズナ朝君主「アブー・サイード・トゥグルル」
1053年-04:30|アフガニスタン/インド| |||<即位>ガズナ朝君主「ファルファート」 (~10590404死去)
1053年-04:00|オマーン/イラン| |||オマーンはセルジューク帝国の一部 (~1154年)
1053年-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アブ・アルファス・アンナジール・アッダ・イラミ・ヒン・アルフセイン」
1053年-01:00|スペイン| |||<即位>シルベス・タイファ「Muhammad」2世 (~1058年)

1100迄 (1445件)

- 1053年-01:00|イタリヤ| |||<即位>スレート公「ゴットフリート」顎髭公 摂政 (~1055年)
- 1053年-01:00|スペイン| |||<即位>トルサ・タイフ「Ya' la」 (~1057年)
- 1053年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>ハインリヒ大公「ハインリヒ8世」ローマ皇帝ハインリヒ3世の息子 (~10540717)
- 1053年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチア大公「ルドルフ」 (~1054年)
- 1053年-01:00|スペイン| |||<即位>マカ・タイフ「Idris3世 al Sami」⇒「Idris2世」 (~1054年)
- 1053年-01:00|スペイン| |||<即位>バディス・タイフ「Badis ibn Hilal」 (~1057年)
- 1053年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>ハインリヒ大公「コンラート1世(クノ)」スチリア伯
- 1053年1月23日-09:00|日本| ||永承8年|<任命>鎮守府将軍「源頼義」 (~不詳)
- 1053年1月23日-08:00|中国| ||西夏・福聖承道1年|西夏の毅宗が福聖承道(-1056年)と改元
- 1053年1月23日-08:00|中国/モンゴル| ||契丹・重熙22年|西夏・福聖承道1年|西夏皇帝・李諒祚が契丹に降表を差出して属国となることでこの戦争が終結
- 1053年1月23日-08:00|中国| ||宋・皇祐5年1月|狄青、崑崙関の戦いで儂智高の軍勢を破って、乱を鎮圧/儂智高、大理へ逃亡し行方不明
- 1053年2月2日-09:00|日本| ||天喜1年1月11日|永承から天喜に改元
- 1053年3月26日-09:00|日本|京都府宇治市|天喜1年3月4日|関白藤原頼通が平等院阿弥陀堂(鳳凰堂)の落慶供養
- 1053年4月15日 00:00|イギリス| |||<死去>ウエックス伯・セント伯「ゴドウィン」
- 1053年4月15日 00:00|イギリス| |||<就任>ウエックス伯「ハロルド」 (~10661014ヘイスティングズの戦いで戦死)
- 1053年6月18日-01:00|イタリヤ| |||教皇軍とルマン諸国がチウイターテで戦い、ルマン軍の勝利
- 1054年-05:30|インド| |||チョーラ朝がチャールキア朝ノメシュヴァラ1世をコッパムで撃破
- 1054年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ウラチスラフ・ヤロスラフイチ」 (~1059年死去)
- 1054年-04:00|ロシア| |||<即位>トムタラニ公「スヴャトスラフ・ヤロスラフイチ」 (~1064年)
- 1054年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>ラフイット朝君主「Abu Nasr Mamlan2世」 (~1071年)
- 1054年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウラキニ公「イゴリ・ヤロスラフイチ」 (~1057年)
- 1054年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<即位>チェルニヒウ公「スヴャトスラフ・ヤロスラフイチ」 (~10771227死去)
- 1054年-01:00|イタリヤ| |||<再位>ベネチア大公「パオロ3世」 (~1059年)
- 1054年-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<死去>ドゥクリヤ公「コニスラフ・ウオイスラフリエヴィッチ」
- 1054年-01:00|アルゼンチン| |||<死去>ハンマード朝スルタン「アル=カイド」
- 1054年-01:00|ドイツ| |||<就任>西フランク大公「コンラート3世若公」 (~1055年)
- 1054年-01:00|イタリヤ| |||<就任>トスカナ辺境伯「ゴットフリート1世」ベアトリチェの夫として (~1069年死去)
- 1054年-01:00|フランス| |||<就任>ナント伯「Hoe12世」 (~1084年)
- 1054年-01:00|チェコ/スロバキア| |||<即位>オモツク公「ウラチスラフ2世」ブジエチスラフ1世の次男 (~1061年退位~10920114死去)
- 1054年-01:00|モンテネグロ/セルビア| |||<即位>ドゥクリヤ公「ミハイロ1世」ウオイスラフリエヴィッチ (⇒1077年ドゥクリヤ王~1081年死去)
- 1054年-01:00|アルゼンチン| |||<即位>ハンマード朝スルタン「マシ」 (~1055年死去)
- 1054年-01:00|チェコ| |||<即位>ブルノ公「コンラート1世」ブジエチスラフ1世の三男 (~1055年退位~10930906死去)
- 1054年-01:00|スペイン| |||<即位>マカ・タイフ「Muhammad2世 al-Musta' li」⇒「Yahya3世 al-Mahdi」 (~1057年)
- 1054年-01:00|チェコ| |||<退位>モラヴィア公「スピチフエフ2世」 (~10610128死去)
- 1054年2月11日-08:00|中国| ||西夏・福聖承道2年|契丹・重熙23年|西夏、契丹に臣礼をとり和を結ぶ
- 1054年2月11日-08:00|中国| ||宋・皇祐6年|チベットでドム・トクンがカーダムパ(教誡派)をはじめ
- 1054年2月18日-09:00|日本|京都府京都市中京区|天喜2年1月8日|高陽院内裏焼亡
- 1054年2月20日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<死去>キエフ大公「ヤロスラフ1世賢公」
- 1054年2月20日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<即位>キエフ大公「イジヤスラフ1世」(1期目~10680915)
- 1054年2月20日-02:00|ウクライナ| |||<即位>ベラスラフリ公「フセヴォド・ヤロスラフイチ」 (~1073年)
- 1054年4月11日-08:00|中国| ||宋・至和1年3月|北宋の仁宗が至和(-1056年)と改元
- 1054年4月19日-01:00|バチカン| |||<死去>第152代ローマ教皇「レオ9世」享年51(10020621生)
- 1054年5月10日-09:00|日本|滋賀県大津市|天喜2年4月|長等神社が現在地(滋賀県大津市三井寺町4-1)に遷座
- 1054年6月16日-01:00|バチカン/トルコ| |||<東西教会の分>ローマ教皇とコンスタンティヌポリ総主教が相互に破門
- 1054年6月19日-01:00|ベルギー| |||<死去>ルーベン・ブラッセル伯「ランベルト2世」
- 1054年6月19日-01:00|ベルギー| |||<就任>ルーベン・ブラッセル伯「Henry2世」ランベルト2世の息子 (~1078年死去)
- 1054年6月24日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「ゲリル・ベルグ・エルクソン」(1回目~1062年)
- 1054年7月4日 00:00|宇宙| |||超新星爆発が3日間にわたって昼間でも観測される。現在のカシオペ
- 1054年7月16日-01:00|バチカン| |||ローマ教会がコンスタンティヌポリ総主教に破門状、東西教会が分裂
- 1054年7月17日-01:00|ドイツ| |||<即位>ドイツ王「ハインリヒ4世」ハインリヒ3世の息子(10840321神聖ローマ皇帝~11051231廃位)
- 1054年7月17日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>ハインリヒ大公「コンラート2世」ローマ皇帝ハインリヒ3世次男 (~10550410死去)
- 1054年8月25日-09:00|日本| ||天喜2年7月20日|<死去>藤原道雅(生年992年/公卿、歌人、中古三十六歌仙の一人)
- 1054年9月5日-09:00|日本|岩手県西磐井郡平泉町|天喜2年8月|安部頼時の子、厨川治郎貞任が叛逆を企て衣河の柵にたて籠る。源頼義を襲う
- 1054年9月15日-01:00|スペイン| |||<死去>パンプ・ローナ王・ナハラ王「ガルシア・サンチェス3世」
- 1054年9月15日-01:00|スペイン| |||<即位>ナハラ王「サンチョ・ガルス4世」ガルシア・サンチェス3世とエステファニア・デ・バルセロナの男子 (~10760604暗殺される)

1100迄 (1445件)

- 1054年9月24日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘルマヌ・コントラクトゥス、ドイツの学者、作曲家(生年1013年)
- 1054年11月3日-07:00|ベトナム| ||大越・竜瑞太平1年10月1日|<死去>李朝大瞿越第2代皇帝「太宗李仏瑪」
- 1054年11月3日-07:00|ベトナム| ||大越・竜瑞太平1年10月1日|<即位>李朝大瞿越第3代皇帝「聖宗李日尊」(~107202
01死去)竜瑞太平と改元(-1059)国号をダウイェト(大越)と定める
- 1055年-05:30|インド| |||<即位>ハラマラ朝国王「Jayasimha1世」(~1070年)
- 1055年-05:30|スリランカ| |||<即位>ホロナラ王「ウイジャヤパ7世」チョラ朝から独立(~1110年死去)
- 1055年-05:30|インド| |||この頃チャハマナ朝がトラマ朝を倒してインドへ進出
- 1055年-05:00|トルクメニスタン/イラン/イラク| |||セルジューク朝のトゥグリル・ベク、バグダードに入城し、カリフからスルタンの称号を受ける。
。ブワイフ朝の支配終る
- 1055年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロト公「ムスチスラフ・イジヤスラヴィチ」(~1067年)
- 1055年-03:30|イラン| |||<即位>ブワイフ朝(ファールス地方)シャーハンシャー「フーラト・ストゥーン」アブー・カリジヤールの子(~1062年死去)
- 1055年-03:00|イラク| |||<退位>ブワイフ朝(イラク地方)アミール「マリク・アッラヒーム」
- 1055年-01:00|アルゼリア| |||<死去>ハンマド朝スルタン「マシ」
- 1055年-01:00|イタリヤ| |||<就任>チロル伯「Albert2世」(~1101年)
- 1055年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国ハラタイン「サッシュ」(~?)
- 1055年-01:00|イタリヤ| |||<即位>トレント司教公「Azzo」(~1065年)
- 1055年-01:00|アルゼリア| |||<即位>ハンマド朝スルタン「ハルキン」(~1062年死去)
- 1055年-01:00|チェコ| |||<退位>ブルノ公「コンラート1世」(~10930906死去)
- 1055年 00:00|イギリス| |||<死去>グリウイング王「グリフィス」
- 1055年 00:00|イギリス| |||<死去>ノーサンランド伯「Siward」
- 1055年 00:00|イギリス| |||<就任>ノーサンランド伯「Tostig」(~1065年)
- 1055年 00:00|イギリス| |||<即位>デハイバースはグイェトの一部(~1063年)
- 1055年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ジエソー島がRestauldによってモンサンミッシェル修道院に遺贈
- 1055年 00:00|モリタニア| |||ムラビト戦士がガナ支配下のアウタゴストを略奪
- 1055年1月-03:30|イラン/イラク| |||セルジューク朝トゥグリルがバグダードに入城、スルタン位を授与
- 1055年1月8日-09:00|日本|京都府京都市|天喜2年12月8日|京極院内裏焼失
- 1055年1月10日-01:00|チェコ| |||<死去>ホヘミア公「ブラジスラフ1世」
- 1055年1月10日-01:00|チェコ| |||<即位>ホヘミア公「ブルノ公「スチフチエフ2世」ブジエチスラフ1世の長子(~10610128死去)
- 1055年1月11日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国皇帝(マクドニア朝)「コンスタンティノス9世モマコス」病死
- 1055年1月11日-02:00|トルコ| |||<復位>東ローマ帝国皇帝(マクドニア朝)「テオドラ」(~10560831死去、マクドニア王朝の血統断絶)女帝
- 1055年1月31日-09:00|日本|福島県喜多方市|天喜3年|新宮熊野神社創建(福島県喜多方市)
- 1055年1月31日-07:00|ベトナム| ||大越・竜瑞太平2年|李朝にチャンパ(占城)が入貢
- 1055年3月17日-09:00|日本|滋賀県大津市|天喜3年2月17日|興福寺講堂・僧坊など焼失
- 1055年4月10日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<死去>ハインリッヒ大公「コンラート2世」
- 1055年4月10日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<復位>ハインリッヒ大公「ハインリッヒ8世」(1056年ローマ王~1061年)
- 1055年4月12日-09:00|日本| ||天喜3年3月13日|1045年以後の新設荘園を停止させる(天喜の荘園整理令)
- 1055年4月13日-01:00|バチカン| |||<就任>第153代ローマ教皇「ウイクトル2世」(~10570728)
- 1055年5月26日-01:00|オーストリア| |||<死去>オーストリア辺境伯「アダルベルト」70歳
- 1055年5月26日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア辺境伯「エルスト」(~10750610死去)
- 1055年7月-01:00|イタリヤ| |||<死去>スヴェレート公「フレリク」
- 1055年7月-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| |||モラヴィアをホヘミアが支配(~1058年)
- 1055年8月28日-08:00|中国| ||契丹・重熙24年8月4日|<死去>契丹可汗「興宗耶律宗真」年40
- 1055年8月28日-08:00|中国| ||契丹・重熙24年8月4日|<即位>契丹可汗「道宗耶律洪基」(~1101年1月)
- 1055年9月9日-08:00|中国| ||契丹・清寧1年8月16日|契丹、清寧(-1064年)と改元する
- 1055年9月16日-09:00|日本|京都府京都市南区|天喜3年8月23日|東寺の塔雷火により焼失
- 1055年10月20日-09:00|日本|京都府京都市上京区|天喜3年9月27日|法成寺焼失
- 1055年11月13日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリヤ| |||<死去>ケルテン公「ウエロナ」辺境伯「ウエルフ」
- 1055年11月13日-01:00|イタリヤ| |||<就任>ウエロナ辺境伯「Conrad3世」(~1061年死去)
- 1056年-07:00|タイ| |||<即位>アヨーティヤ王国第13代国王「タムカラト王」(~1107年)
- 1056年-05:30|スリランカ| |||<即位>ホロナラ王「ウイジャヤパ7世」(~1111年)
- 1056年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>東カラハ朝ハン「Muhammad bin Yusuph」(~1057年)
- 1056年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<即位>ヌマイド朝「Mani' ibn Shabib」(~1063年)
- 1056年-01:00|フランス| |||<死去>メス・ハラティン伯「Godofroy」
- 1056年-01:00|オーストリア| |||<就任>シュターアマル辺境伯「オタル」(~10750329死去)
- 1056年-01:00|ドイツ| |||<就任>テューリンゲン方伯「ルトヴィヒ・デア・シュプリンガー」跳躍伯(~1123年死去)
- 1056年-01:00|フランス| |||<就任>メス・ハラティン伯「Folmar3世」(~1075年)
- 1056年-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公「コンラート3世」(~1061年死去)
- 1056年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネヴェント大公「ハントナル79世」(~10740207死去)
- 1056年-01:00|ジブラルタル/スペイン| |||ジブラルタルはセビリアのタイファの一部
- 1056年 00:00|モロッコ| |||<死去>ムラビト朝アミール「Yahya ibn Umar al-Lamtuni」
- 1056年 00:00|モロッコ| |||<即位>ムラビト朝アミール「アブー・ハカル・イブン・ウマル」(~1087年死去)

1100迄 (1445件)

- 1056年2月18日-09:00|日本|岩手県一関市|天喜4年2月|<阿久利河の戦い(迫川の戦い)(陸奥国/岩手県一関市)>
鎮守府(胆沢城)から国府多賀城に源頼義が帰ろうとして阿久利川畔に野営した際、頼義のもとを密使が訪れ、
頼義の部下の藤原光貞・藤原元貞が夜襲を受けて人馬に損害が出る
- 1056年7月16日-09:00|日本|東京都足立区|天喜4年6月|源頼義、義家父子によって炎天寺創建(東京都足立区)
- 1056年8月31日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国皇帝(マケドニア朝)「テオドラ」女帝/マケドニア王朝の血統断絶
- 1056年8月31日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝「ミカエル6世ストラティオティコス」テオドラの養子。元老院議員(~10570831
廃位~1059年死去)
- 1056年9月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>ノルマルク辺境伯「ウイヘルム」
- 1056年9月10日-01:00|ドイツ| |||<就任>ノルマルク辺境伯「オットー」(~1057年戦死)、「ロタル・ウト1世」(~10570626殺される
)
- 1056年9月15日-09:00|日本| ||天喜4年8月4日|彗星東方に見ゆ
- 1056年10月5日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア/スイス| |||<死去>フランク・ローマ帝国皇帝王・ブルグント王「ハインリヒ3世」兼イタ
リア王「エンリコ3世」38歳(誕生10171028)
- 1056年10月5日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア/スイス| |||<即位>フランク・ローマ帝国皇帝・ブルグント王「ハインリヒ4世」兼イタ
リア王「エンリコ4世」ハインリヒ3世の長子(~11051231廃位)
- 1056年10月12日-08:00|中国| ||宋・嘉祐1年9月|北宋の仁宗が嘉祐(-1063年)と改元
- 1056年12月1日-09:00|日本|京都府宇治市|天喜4年10月22日|宇治平等院法華堂落慶供養
- 1057年-06:30|ミャンマー| |||パガン朝のアーヤター王、モン族の国外への征服/モン文化・上座部仏教を導入
- 1057年-05:00|キルギス/スズベキスタン/中国| |||<即位>東カラハーン朝ハン「Ibrahim bin Muhammad Khan」(~1059年)
- 1057年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「イゴリ・ヤロスラヴィチ」(~1060年死去)
- 1057年-03:30|イラン| |||<即位>ハバント朝太守「Qarin2世」(~1074年)
- 1057年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウクライニ公「ロスチスラフ・ウラジミロヴィチ」(~1064年)
- 1057年-01:00|イタリア| |||<死去>カプア公「ハンダルフ6世」
- 1057年-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サヴォイア伯「オットーネ」
- 1057年-01:00|ドイツ| |||<死去>ノルマルク辺境伯「オットー」戦死
- 1057年-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サヴォイア伯「ピエトロ1世」(~10780809死去)
- 1057年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国「ラタイ「ラト」」(~?)
- 1057年-01:00|イタリア| |||<即位>カプア公「ランダルフ8世」(~1058年)
- 1057年-01:00|イタリア| |||<即位>スペレート公「マチラ」(~1082年)、「ゴットフリート3世髭公」下ロレーヌ侯(~1069年死去)
- 1057年-01:00|スペイン| |||<即位>マロン・タイファ「Manad」(~1066年)
- 1057年-01:00|スペイン| |||<復位>マロン・タイファ「Abu Nur Hilal」=>「Abu Nars Fatuh」(~1065年)
- 1057年-01:00|ドイツ| |||ドイツでハンベルク家人法が成立、封建的の主従関係が形成
- 1057年 00:00|イギリス| |||<就任>ケント伯「レオウイン・ゴドウィンソン」(~10661014、ハステイングスの戦いで戦死)
- 1057年 00:00|チャンネル諸島/フランス| |||ホルマニー島はケタンス司教が所持(~1228年)
- 1057年2月7日-08:00|中国| ||西夏・夏都1年|西夏の毅宗が夏都(-1062年)と改元
- 1057年3月24日-08:00|中国| ||宋・嘉祐2年2月17日|中国、北京南方で地震(M6.8)、死者2万5千人
- 1057年5月5日-09:00|日本|京都府京都市|天喜5年3月29日|四条宮焼亡
- 1057年6月5日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝「イオアン1世コムネノス」(~10591122病で退位。1060年死去)ミカエル6世
ストラティオティコスの文治政治に対し反乱を起こし、軍を率いて首都コンスタンティノポリスに進軍し、ミカエル6世を退位させて、自
らが皇帝となった
- 1057年6月26日-01:00|ドイツ| |||<死去>ノルマルク辺境伯「ロタル・ウト1世」殺される
- 1057年6月26日-01:00|ドイツ| |||<就任>ノルマルク辺境伯「ウト2世」(~1082年死去)
- 1057年7月28日-01:00|バチカン| |||<死去>第153代ローマ教皇「ウイクトル2世」
- 1057年8月-01:00|イタリア| |||<死去>プツァヤ伯「ウンフレート」
- 1057年8月-01:00|イタリア| |||<就任>プツァヤ伯「ロベルト・イル・ケイカルト」ウンフレートの弟(~10590823退位)
- 1057年8月2日-01:00|バチカン| |||<就任>第154代ローマ教皇「ステファヌス10世」(~10580329死去)
- 1057年8月15日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「マクベス赤王」スコットランド王ダuncan1世の子マルカム・カンモーに、2度の戦
いの末敗れる
- 1057年8月15日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「ルラハ不幸王」(~10580317死去)
- 1057年8月28日-09:00|日本|岩手県胆沢郡金ヶ崎町|天喜5年7月26日|前九年の役/安倍頼時は反旗を翻した豪族・
安倍富忠を説得するために北上したが仁土呂志辺においてに富忠勢に奇襲を受け流れ矢を受けて深手を負っ
た/鳥海柵まで退却したところで没
- 1057年8月31日-02:00|トルコ| |||<廃位>東ローマ帝国皇帝「ミカエル6世ストラティオティコス」(~1059年死去)
- 1057年9月3日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニュ伯「ルノー1世」
- 1057年9月3日-01:00|フランス| |||<就任>ブルゴニュ伯「ギヨーム1世」ルノー1世の息子(~10871112死去)
- 1057年9月5日-09:00|日本| ||天喜5年8月4日|寅刻、彗星東方に見ゆ。長さ丈余
- 1057年9月28日-01:00|ドイツ/スイス| |||<死去>シュヴァーベン大公「オットー3世」
- 1057年9月28日-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン大公「ルドルフ1世」(~1079年退位)
- 1057年11月25日-09:00|日本|京都府京都市|天喜5年10月26日|小野宮焼亡
- 1057年11月29日-09:00|日本|岩手県一関市|天喜5年11月|<黄海柵の戦い(陸奥国/岩手県一関市)>安部氏の守る
黄海柵を源頼義が攻めるが、大敗北を喫する
- 1058年-01:00|カプア| |||<死去>カプア王「スティエパノ1世」

1100迄 (1445件)

- 1058年-01:00|デンマーク| |||<就任>シュレスヴイヒ公「オーラフ1世」(~10950818死去)
- 1058年-01:00|フランス| |||<就任>ホフティエ伯「ギヨーム6世」ギヨーム3世の四男(~1086年)
- 1058年-01:00|イタリア| |||<即位>カプア公「リチャード1世」(~10780303年死去)
- 1058年-01:00|クワチア| |||<即位>クワチア王「ペタル・クレシムル4世」ステファン1世の息子(~1075年死去)
- 1058年-01:00|スペイン| |||<即位>シルベスタファ「Isa3世」(~1063年)
- 1058年-01:00|チェコ/スロバキア/ハンガリー| |||<復位>モラヴィア公「ブレチスラフ1世」(2回目~1061年2月)
- 1058年3月17日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「ルラッハ不幸王」次の王マルカム3世に暗殺される
- 1058年3月17日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「マルカム3世大首領王」ダンカン1世の息子(~10931113死去)
- 1058年3月20日-09:00|日本|京都府京都市|天喜6年2月23日|法成寺金堂など焼失
- 1058年3月23日-09:00|日本|京都府京都市|天喜6年2月26日|新造の内裏焼失、中和院・朝堂院・朝集院、大極殿焼亡
- 1058年3月29日-01:00|パチン| |||<死去>第154代ローマ教皇「ステファヌス10世」
- 1058年4月4日-01:00|パチン| |||<就任>対立ローマ教皇「ベネディクトゥス10世」(~10590124退任)
- 1058年9月-01:00|フランス| |||秋<死去>アキテーヌ公兼ホフティエ伯「ギヨーム7世」
- 1058年9月-01:00|フランス| |||秋<即位>アキテーヌ公「ギヨーム8世」(~10860925死去)
- 1058年9月19日-09:00|日本| ||康平1年8月29日|天喜から康平に改元
- 1058年11月28日-01:00|ポーランド| |||<死去>ポーランド公「カジミェシュ1世」ボグイェル
- 1058年11月28日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ボレスワフ2世」シュチボドゥル「カジミェシュ1世の息子」(⇒10761226王~1079年)
- 1058年12月-03:00|イラク| |||ハゲダート総督がアッバース朝カリフを追放
- 1059年-08:00|インドネシア| |||<即位>ジャングラマハラジャ「Samarotsaha」(~1059年)
- 1059年-05:30|インド| |||<即位>ガズナ朝君主「イブラヒム」(~1099年死去)
- 1059年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>東カラハン朝ハン「Mahmud」⇒「Umar」(~1075年)
- 1059年-04:00|ロシア| |||<死去>スモレンスク公「ウヤチスラフ・ヤロスラフイチ」
- 1059年-01:00|クワチア| |||<就任>クワチア・ハン「コイヨ」(~1069年)
- 1059年-01:00|イタリア| |||<即位>プッリャ・カラブリア公「ロベルト・イル・グイスカルト」(~10850717死去)
- 1059年-01:00|イタリア| |||<即位>ベネチエンテ大公「ランドルフ6世」(~10771127死去)
- 1059年-01:00|イタリア| |||<退位>プッリャ伯「ロベルト・イル・グイスカルト」
- 1059年-01:00|パチン/イタリア| |||ローマ教皇が南イタリアのルマン人と同盟、ロベルト・ギスカールにアプリア、カラブリア、シチリアを授封
- 1059年1月24日-01:00|パチン| |||<就任>第155代ローマ教皇「ニコラス2世」(~10610727死去)
- 1059年1月24日-01:00|パチン| |||<退任>対立ローマ教皇「ベネディクトゥス10世」
- 1059年2月12日-09:00|日本|京都府京都市|康平1年閏12月27日|藤原教通の二条第焼亡
- 1059年2月16日-09:00|日本| ||康平2年|この年頃更級日記(菅原孝標女)できる
- 1059年2月16日-07:00|ベトナム| ||大越・彰聖嘉慶1年|大越・聖宗李日尊が彰聖嘉慶と改元(-1066)
- 1059年2月23日-09:00|日本|京都府京都市|康平2年1月8日|皇居一条院焼失
- 1059年4月4日-04:30|アッガニスタン/インド| |||<死去>ガズナ朝君主「ファッルザード」
- 1059年4月4日-04:30|アッガニスタン/インド| |||<即位>ガズナ朝君主「イブラヒム」(~1099年死去)
- 1059年4月13日-01:00|パチン| |||ローマ教会会議が教皇選任制を規定し、皇帝の干渉を排除
- 1059年5月23日-01:00|フランス| |||<即位>フランス王(カペー朝)「フィリップ1世」(~11080729死去)
- 1059年6月29日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公「ベルンハルト2世」
- 1059年6月29日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン公「オットルフ」(~10720328死去)
- 1059年7月7日 00:00|モロッコ| |||<死去>ムラービト朝アミール「Abdallah ibn Yasin」
- 1059年8月14日-01:00|ルクセンブルク/フランス| |||<死去>ルクセンブルク伯「ギゼルハルト」
- 1059年8月14日-01:00|ルクセンブルク/フランス| |||<就任>アルデンス伯「コンラット」(⇒10830706ルクセンブルク伯)
- 1059年11月22日-02:00|トルコ| |||<退位>東ローマ帝国皇帝「イサキオス1世コムネノス」病で
- 1059年11月24日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝(ドゥカス朝)「コンスタンティノス10世ドゥカス」アントロニコス・ドゥカスの子・元老院議員(~10670522死去)
- 1060年-07:00|カンボジア| |||このころアンコール朝でハブオン寺院が建立
- 1060年-05:30|インド| |||<即位>チャンドラ朝国王「Kirtti-Varman」(~1100年)
- 1060年-04:30|アッガニスタン| |||<死去>ゴール朝マリク「Abbas ibn Shith」
- 1060年-04:30|アッガニスタン| |||<即位>ゴール朝マリク「Muhammad ibn Abbas」(~1080年死去)
- 1060年-04:00|ロシア| |||<死去>スモレンスク公「イゴリ・ヤロスラフイチ」
- 1060年-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマーム「アルム・タシブ・アルムジャイト・ハムザ」アブ・ハシム・アルハッサンの息子(~10671102死去)
- 1060年-02:00|トルコ| |||<即位>ラム・サルタン「Qutalmish」(~1064年)
- 1060年-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「エムンド(老王)」
- 1060年-01:00|フランス| |||<死去>ダマルタン伯「Eudes」
- 1060年-01:00|フランス| |||<死去>トゥールーズ伯「ボンス2世」
- 1060年-01:00|クワチア/スロベニア/イタリア| |||<就任>イストリア辺境伯「Ulric1世」(~10700306死去)
- 1060年-01:00|フランス| |||<就任>ダマルタン伯「Hughes1世」(~1100年死去)
- 1060年-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ステンキル」ランゴバルト王ウルフソンの息子(~1066年死去)
- 1060年-01:00|スペイン| |||<即位>トルトサ・タイファ「Nabil」(~1060年)
- 1060年-01:00|イタリア/ルウェー| |||この頃ルマン人のシチリア攻撃が始まる

1100迄 (1445件)

1060年-01:00|イタリヤ| ||ルッヰェロにより、レヰヰヨ陥落
1060年1月-03:30|イラン/イラク| ||セルヰユク朝軍がハヰグダヰット入城、アッハヰス朝カリフを再擁立
1060年2月5日-08:00|中国| ||宋・嘉祐5年|欧陽脩ら「新唐書」編纂
1060年2月5日-07:00|ベトナム| ||大越・彰聖嘉慶2年|<即位>チャンハヰ王「ハヰトラウヰアルマン3世」(~1061年)
1060年2月5日-09:00|日本|奈良県奈良市|康平3年5月4日|興福寺焼失
1060年4月-03:00|イラク| ||(or5月)ハヰグダヰットにシヰヲ職を設置
1060年7月-02:00|シヰア・アラブ| ||<即位>シルダヰス朝アミール「Rashid al-Dawla」(~1061.4)
1060年8月4日-01:00|フランス| ||<死去>フランス王(カヰ朝)「アンリ1世」(誕生1008年)
1060年8月4日-01:00|フランス| ||<即位>フランス国王(カヰ朝)「フィリップ1世」アンリ1世の子(~11080729)/母アンヌが1066年まで初の女性「摂政」として実権を握る/「フランク伯」ホヰドワヰ5世も「摂政」となる
1060年11月14日-01:00|フランス| ||<死去>アンヰュー伯「シヰヨフワヰ2世鎚伯」
1060年11月14日-01:00|フランス| ||<就任>アンヰュー伯「シヰヨフワヰ3世髭伯」ガヰティエ伯シヰヨフワヰ2世とエルマンガルト・ダヰンヰューの長男(~1068年)1096年死去56歳
1060年12月6日-01:00|ハンガリ-| ||<死去>ハンガリ-王「アントラ-シュ1世白王」弟ハヰラガヰホヰランド軍を指揮してハンガリ-へ戻り、王に対して決定的な勝利/敗北したアントラ-シュは捕らえられシヰルクへ連行され、そこで死んだ
1060年12月6日-01:00|ハンガリ-| ||<即位>ハンガリ-王「ハヰラ1世ハヰイノック」アントラ-シュ1世の弟(~10630911没)
1061年-03:00|イラク| ||<即位>マルヰン朝「Nizam al-Dawla Nasr」(~1079年)
1061年-01:00|イタリヤ| ||<死去>ウヰェロ-ナ辺境伯「Conrad3世」
1061年-01:00|オ-ストリア/スロヰニア| ||<死去>ケルンテン公「コンラト3世」
1061年-01:00|トヰイ| ||<死去>ロトリンヰア宮中伯「ハインリヒ1世狂気伯/修道士伯」
1061年-01:00|イタリヤ| ||<就任>ウヰェロ-ナ辺境伯「Berthold1世」(~1077年)
1061年-01:00|フランス| ||<就任>トゥールズ伯「ギヰヨム4世」(~1094年死去)
1061年-01:00|トヰイ| ||<就任>ロトリンヰア宮中伯(イツォー祢家)「ヘルマン2世」(~10850920死去)
1061年-01:00|オ-ストリア/スロヰニア| ||<即位>ケルンテン公「ベルトルト2世」(~1077年)
1061年-01:00|トヰイ/オ-ストリア| ||<即位>ハヰエルン大公「オット2世」(~1070年)
1061年-01:00|スヰイン| ||<即位>ハヰレンシア・タイファ「Abd al-Malik al-Muzzaffar」(~1065年)
1061年-01:00|イタリヤ| ||ルッヰェロにより、メッヰナ陥落
1061年 00:00|モッコ| ||<即位>ムラ-ヒト朝アミール「ユ-スフ・イブン・タ-シュフィーン」(~1106年死去)
1061年1月24日-07:00|ベトナム| ||大越・彰聖嘉慶3年|<即位>チャンハヰ王「ルトラウヰアルマン3世」(~1074年)
1061年1月28日-01:00|チヰコ| ||<再位>ブルノ公「コンラト1世」(~1092年退位~10930906死去)
1061年1月28日-01:00|チヰコ/スロヰキヰ| ||<死去>ホヰヘミア公「スヰチヰニヰ2世」
1061年1月28日-01:00|チヰコ/スロヰキヰ| ||<即位>ホヰヘミア公「ウヰラチスラヰ2世」(⇒10860615ホヰヘミア王~10920114死去)
1061年1月28日-01:00|チヰコ/スロヰキヰ| ||<退位>オロモツツ公「ウヰラチスラヰ2世」(~10920114死去)
1061年2月-01:00|チヰコ/スロヰキヰ| ||<即位>オロモツツ公「オチ1世」アヰシヰチスラヰ1世の五男(~10870609死去)
1061年2月-01:00|チヰコ/スロヰキヰ| ||<即位>ブルノ公「コンラト1世オチ」(~10920120)
1061年4月-02:00|シヰア・アラブ| ||<即位>シルダヰス朝アミール「Mu'izz al-Dawla」(~1062年死去)
1061年6月28日-01:00|オランダ| ||<死去>ホラント伯「フロリス1世」
1061年6月28日-01:00|オランダ| ||<就任>ホラント伯「ディルク5世」(~10910617死去)
1061年7月27日-01:00|バチカン| ||<死去>第155代ローマ教皇「ニコラウス2世」
1061年9月30日-01:00|バチカン| ||<就任>対立ローマ教皇「ホリウス2世」(~10640531退位)
1061年9月30日-01:00|バチカン| ||<就任>第156代ローマ教皇「アレクサンデル2世」(~10730421死去)
1061年12月25日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|康平4年11月25日|備中国吉備津彦社焼失
1061年12月29日-09:00|日本|島根県出雲市|康平4年11月29日|杵築社(出雲大社)倒壊
1062年-06:30|ミャンマ-| ||<即位>アラカン国王「ミンヒル」(~1068年)
1062年-05:30|インド| ||<即位>東チャルキヤ朝君主「Shaktivarman2世」(~1062年)
1062年-03:30|イラン| ||<死去>サラト朝(タヰラム)国王「Musafir ibn Ibrahim2世」
1062年-03:30|イラン/イラク| ||<死去>ブヰワフ朝(ファールス地方)アミール「フ-ラト・ストゥーン」セルヰユク朝に滅ぼされる
1062年-03:00|サヰアアラビヰア| ||<就任>メッカ・シャリフ「アブ・ハシムハンマド・イブン・シヰヤファ-」(~1094年)
1062年-02:00|シヰア・アラブ| ||<死去>シルダヰス朝アミール「Mu'izz al-Dawla」
1062年-02:00|シヰア・アラブ| ||<即位>シルダヰス朝アミール「Asad al-Dawla」(~1065.8)
1062年-01:00|トヰイ| ||<死去>ウヰアイマル伯・マイセン辺境伯・テュ-リンゲン辺境伯「ウヰイルヘルム4世」
1062年-01:00|チヰニヰア/アルヰヰェリア/リビヰア| ||<死去>ズヰイル朝アミール「アル=ムイヰズ・イブン・ハヰテ=イス」
1062年-01:00|アルヰヰェリア| ||<死去>ハンマド朝スルタン「ハヰルキン」
1062年-01:00|トヰイ| ||<就任>ウヰアイマル伯・テュ-リンゲン辺境伯・マイセン辺境伯「オット1世」ウヰアイマル伯ウヰイルヘルム3世の次男、ウヰイルヘルム4世の弟(~1067年死去)
1062年-01:00|フランス| ||<就任>ブヰワフ朝アンヰス辺境伯「ベルラン1世」フォルカキエ伯、エンマの息子
1062年-01:00|チヰニヰア/アルヰヰェリア/リビヰア| ||<即位>ズヰイル朝アミール「タミン・イブン・アル=ムイヰズ」(~1108年死去)
1062年-01:00|アルヰヰェリア| ||<即位>ハンマド朝スルタン「アン=ナシール」(~1088年死去)
1062年 00:00|モッコ| ||ムラ-ヒト朝のユ-スフがマラケシュへ遷都
1062年3月9日-01:00|フランス| ||<死去>メ=ヌ伯「ハヰバ-ト2世」
1062年3月9日-01:00|フランス| ||<就任>メ=ヌ伯「コ-ティエ1世」(~1063年死去)
1062年7月30日-09:00|日本| ||康平5年6月22日|<死去>藤原茂子(生年生年未詳、後三条天皇の皇太子時代の妃)

1100迄 (1445件)

- 1062年9月22日-09:00|日本|岩手県奥州市|康平5年8月17日|<前九年の役>源頼義、小松柵で安倍貞任の弟宗任を破る
- 1062年9月24日-09:00|日本|岩手県奥州市|康平5年8月19日|<小松柵の戦い(陸奥国/岩手県一関市)>源頼義、清原武則連合軍、小松柵に於いて安倍貞任を破る
- 1062年10月10日-09:00|日本| ||康平5年9月5日|安部貞任が源頼義の本営を襲うが敗れ、衣川柵まで退く
- 1062年10月11日-09:00|日本|岩手県奥州市|康平5年9月6日|<衣川柵の戦い>源頼義が安部貞任の陣取る衣川関を攻め、安部貞任は鳥海柵へ向かって退く
- 1062年10月16日-09:00|日本|岩手県胆沢郡金ヶ崎町|康平5年9月11日|安部貞任の鳥海柵が陥ち、貞任は厨川柵へ退く
- 1062年10月22日-09:00|日本|岩手県盛岡市|康平5年9月17日|厨川の戦い/安倍貞任が源頼義に厨川柵を破られ、討たれる(前九年の役の終結)44歳(誕生:寛仁3(1019))
- 1063年-05:30|インド/スリランカ| ||<死去>チョーラ朝国王「ラーゼント」2世
- 1063年-05:30|インド| ||<即位>東チャルキヤ朝君主「Vijayaditya6世」(~1068年)
- 1063年-05:30|インド/スリランカ| ||<即位>チョーラ朝国王「Virarajendra」Rajendraの息子(~1070年死去)
- 1063年-03:00|サウジアラビア| ||スライフ朝アラーがサマ地方を奪い、ヒジャズ方面に侵攻
- 1063年-01:00|フランス| ||<死去>フランク伯「ジョフロワ1世」
- 1063年-01:00|フランス| ||<死去>メヌ伯「コルティエ1世」
- 1063年-01:00|フランス| ||<就任>ウエカサン伯「ラルフ4世」ウァロア伯・アミアン伯、ウァロア伯ラルフ3世の息子(~1074年)
- 1063年-01:00|ベルギー| ||<就任>ナムール伯「アルベール3世」(~11020729死去)アルベール2世の子
- 1063年-01:00|フランス| ||<就任>フランク伯「ベルラン2世」ジョフロワ1世の子(~1093年)
- 1063年-01:00|フランス| ||<就任>メヌ伯「ロート・カトセ」(~1069年)
- 1063年-01:00|ニジェール| ||<即位>ソガイ王国国王「ビヤイ・コイ・キ」(~1082年)
- 1063年-01:00|ジブチ/モロッコ| ||ジブチはアルモラヴィッド王朝の一部
- 1063年-01:00|フランス/スペイン| ||ブルゴニユ人十字軍、スペインへ遠征
- 1063年-01:00|スペイン| ||メリヤをマカ(タイフ)王国が占領(~1064年)
- 1063年 00:00|イギリス| ||ホイスはイリス大君主配下
- 1063年 00:00|モロッコ/スペイン| ||モロッコはアルモラヴィッド・スルタン朝の一部(モロッコとほとんどのイベリア半島の西部、カハラ、マリ、モリタニアと西アルジェリア~1147年)
- 1063年2月1日-08:00|中国| ||西夏・拱化1年|西夏の毅宗が拱化(-1067年)と改元
- 1063年2月20日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<死去>シルヴァンシャ朝国王「Salar」
- 1063年2月20日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<即位>シルヴァンシャ朝国王「Fariburz1世」前王の息子(~1096年死去)
- 1063年3月3日-09:00|日本|東京都杉並区|康平6年2月|源頼義が京都の石清水八幡宮より分霊を勧請し大宮八幡宮創建(東京都杉並区大宮)
- 1063年3月29日-09:00|日本| ||康平6年2月27日|<任命>鎮守府将軍「清原武則」(~不詳)
- 1063年4月23日-09:00|日本|京都府京都市|康平6年3月22日|豊楽院焼失
- 1063年4月30日-08:00|中国| ||宋・嘉祐8年3月29日|<死去>北宋第4代皇帝「仁宗」病死(享年54歳)
- 1063年5月1日-08:00|中国| ||宋・嘉祐8年4月1日|<即位>北宋第5代皇帝「英宗」(~治平4年1月8日(1067年1月25日)死去)
- 1063年5月8日-01:00|スペイン| ||<死去>アラゴン国王「ラムロ1世」
- 1063年5月8日-01:00|スペイン| ||<即位>アラゴン国王「サンチョ・ラムリス」(1076年以降は兼ガラゴ王国~10940604死去48歳)
- 1063年6月20日 00:00|アイスランド| ||<就任>アイスランド連邦共和国政府(アルシグ)法話者「賢者グナル・トルグ・リムソ」(1回目~1065年)
- 1063年8月5日 00:00|イギリス| ||<死去>ホイス王「ケルフィス・アプ・ルウェリン」
- 1063年8月5日 00:00|イギリス| ||<即位>ケルフィス王「キャロック・アプ・ケルフィス」ケルフィス・アプ・Rhydderchの息子(~1081年死去)
- 1063年8月5日 00:00|イギリス| ||<即位>デハイバース王「マルタット・アプ・オウエイン」(~1072年死去)
- 1063年8月5日 00:00|イギリス| ||<即位>ホイス公「ブレイン・アプ・シフイン」(~1075年死去)
- 1063年8月5日 00:00|イギリス| ||<復位>ケウェント王「キルト・カント・アプ・モリク」(~1074年死去)
- 1063年8月27日-09:00|日本|神奈川県鎌倉市|康平6年8月|源頼義、鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市)を建立
- 1063年9月4日-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| ||<死去>大セルジューク朝スルタン「トゥグルルク・ベグ」
- 1063年9月11日-01:00|ハンガリー| ||<死去>ハンガリー王「ベラ1世バノック」
- 1063年9月11日-01:00|ハンガリー| ||<即位>ハンガリー王「サモン」アントラシュ1世の息子(~10740314退位)
- 1063年9月13日-09:00|日本|京都府京都市東山区|康平6年8月18日|清水寺が焼失
- 1064年-08:00|インドネシア| ||<即位>スタガール王国マハラジャ「Prabu Langlangbhumi/Sang Mukteng Kreta」(~1154年)
- 1064年-04:00|ロシア| ||<即位>トムタラニ公「ケレフ・スガヤスラフイ」⇒「ロスラフ・ウラジミロフイ」(~1065年)
- 1064年-01:00|フランス| ||<死去>オーベルニュ伯「ギョーム5世」
- 1064年-01:00|フランス| ||<就任>オーベルニュ伯「ロベルト2世」ギョーム5世の息子(~1096年)
- 1064年-01:00|ドイツ| ||<就任>ロタリンギア宮中伯「ヘルマン2世」(~10850920死去)
- 1064年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド上王「デアマイト・マック・ドゥンチャダ・マイ」(~10720207没)
- 1064年 07:00|メキシコ| ||トウラのトルカ王国崩壊
- 1064年1月21日-09:00|日本| ||康平7年|藤原明衡「新猿楽記」を著す

1100迄 (1445件)

- 1064年1月21日-08:00|中国| ||宋・治平1年|北宋代英宗が治平(-1067年)と改元
- 1064年4月27日-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| ||<即位>大セルジューク朝スルターン「アルフ・アルスラン」(~10721215死去)
- 1064年5月31日-01:00|バチカン| ||<退位>対立ローマ教皇「ホノリウス2世」
- 1064年6月13日-09:00|日本|福岡県太宰府市|康平7年5月13日|太宰府観世音寺焼失
- 1064年8月15日-01:00|スペイン| ||<死去>イブン・ハズム(生年994年/後ウマイヤ朝の神学者、法学者、詩人)
- 1064年12月13日-08:00|中国| ||契丹・清寧10年11月3日|吏民の衣服の制を定める
- 1064年12月19日-09:00|日本| ||康平7年11月9日|<死去>藤原長家(生年1005年/公卿、歌人)
- 1065年-04:00|ロシア| ||<復位>トムタラニ公「ケレフ・スガヤトスラウイチ」⇒「ロススラフ・ウラジミロウイチ」(~1067年)
- 1065年-04:00|アルメニア/イラン| ||セルジューク朝軍がアルメニアの首都アニを占領
- 1065年-01:00|フランス| ||<死去>メコン伯「Geoffroy」
- 1065年-01:00|フランス| ||<死去>ルル伯「マセ3世」
- 1065年-01:00|ドイツ| ||<就任>ステップーンハイム伯「Stephen1世」(~1080年)
- 1065年-01:00|フランス| ||<就任>メコン伯「ギ-2世」(~1078年退任)
- 1065年-01:00|ベルギー/オランダ| ||<就任>リンブルフ伯「ヴァルラム1世」(~1082年死去)
- 1065年-01:00|フランス| ||<就任>ルル伯「ユ-グ1世」(~1118年死去)
- 1065年-01:00|フランス| ||<即位>下ロリンギア公「ゴトフロワ3世(2世)髭公」(~1069年)
- 1065年 00:00|イギリス| ||<就任>ノサンランド伯「Morcar」(~1066年)
- 1065年2月-01:00|アンドラ| ||<死去>ウルジェイ伯「Ermengol3世」Barbastroで殺される
- 1065年2月-01:00|アンドラ| ||<就任>ウルジェイ伯「Ermengol4世」(~10920311死去)
- 1065年2月8日-08:00|中国| ||契丹・咸雍1年1月1日|契丹、咸雍(-1074年)と改元
- 1065年8月-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>ミダース朝アミール「Rashid al-Dawla」(~1075年死去)
- 1065年9月4日-09:00|日本| ||治暦1年8月2日|康平から治暦に改元
- 1065年9月17日-09:00|日本|滋賀県大津市|治暦1年8月15日|源頼義近江国錦織に八幡宮を建立
- 1065年10月3日-09:00|日本| ||治暦1年9月1日|新立の荘園を停止(治暦の荘園整理令)
- 1065年12月24日-01:00|スペイン| ||<死去>レオン・カスティール王「フェルナンド1世大王」兼カスティール伯「Ferdinand Sanchez」(誕生1016年)遺領が、カスティール、レオン、ガリシアに分割される
- 1065年12月24日-01:00|スペイン| ||<即位>ガルスア王「ガルスア2世」(~1072年廃位)
- 1065年12月24日-01:00|スペイン| ||<即位>レオン国王「アルフォンソ6世」(~1072.1兄弟により廃位)
- 1065年12月24日-01:00|スペイン| ||<即位>レオン・カスティール王「サンチョ2世強王」(~10721006死去)
- 1065年12月28日 00:00|イギリス| ||英国ロンドンにウェストミンスター寺院竣工し聖別される
- 1066年-07:00|カホゾア| ||<即位>カメル王朝国王「ハルシャヴァルマン3世」(~1080年)
- 1066年-03:00|イェメン| ||<死去>スレイヒト朝スルターン「アリ・アズ=スラヒ」
- 1066年-01:00|スウェーデン| ||<死去>スウェーデン王国国王「ステンキル」
- 1066年-01:00|スペイン| ||<死去>ウェール伯「William2世」
- 1066年-01:00|ベルギー| ||<就任>シー伯「アノルト1世」Louis2世の息子(~11060416死去)
- 1066年-01:00|フランス| ||<就任>トロワ・モー伯・ジャンバネウ伯「ティボ-1世」エティエンヌ2世の兄(~1089年死去)フワロ伯ティボ-3世
- 1066年-01:00|ハンガリー| ||<就任>ハンガリー王国パライン「オットー・ジェル」(?)
- 1066年-01:00|スペイン| ||<就任>ウェール伯「Bernard2世」(~1100年死去)
- 1066年-01:00|スウェーデン| ||<即位>スウェーデン王国国王「エリク7世」(~1067年戦死)、「エリク8世(異教徒王)」(~1067年死去)
- 1066年1月5日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリス王「エドワード 懺悔王」
- 1066年1月5日 00:00|イギリス| ||<即位>イギリス王「ハロルド2世」(~10.14戦死)
- 1066年1月29日-08:00|中国| ||契丹・咸雍2年|この歳、道宗、国号を改めて大遼と改める
- 1066年1月29日-07:00|ベトナム| ||大越・竜彰天嗣1年|李朝の聖宗李日尊が竜彰天嗣と改元(-1067)
- 1066年4月3日-09:00|日本| ||治暦2年3月6日|彗星が現れる(ハレ彗星)
- 1066年4月27日-09:00|日本| ||治暦2年4月1日|酉刻、彗星西方に見ゆ
- 1066年6月23日 00:00|アイルランド| ||<就任>アイルランド連邦共和国政府(アルシング)法話者「コルバイン・フロサソ」(~1071年)
- 1066年9月20日-01:00|ノルウェー/イギリス| ||8月28日|ハラル3世とスティンクが、イングランド北方のユーク近郊でイングランド軍を討ち破る
- 1066年9月25日-01:00|ノルウェー| ||<死去>ノルウェー王「ハラル3世グルトソン苛烈王」イングランド侵攻の戦いで敗死(誕生1016年)
- 1066年9月25日-01:00|ノルウェー| ||<即位>ノルウェー王「マグヌス2世ハラルドソン」(~10690428没)
- 1066年9月25日 00:00|イギリス/ノルウェー| ||<スタンフォード・ブリッジの戦い>英国王ハロルド2世が弟スティとノルウェー王ハラル3世を破る
- 1066年9月29日 00:00|イギリス/フランス| ||ノルマン公ギヨームが、5000の船隊を率いてイングランド南部のペヴァンジー-に上陸する(ヘイスティングスの戦いの始め)
- 1066年10月14日 00:00|イギリス| ||<死去>イギリス王・ウェセックス伯「ハロルド2世」ヘイスティングスの戦いで敗死
- 1066年10月14日 00:00|イギリス| ||<死去>ケント伯「レオウィン・ゴトウインソン」ヘイスティングスの戦いで戦死
- 1066年10月14日 00:00|イギリス| ||<就任>ウェセックス伯「ウィリアム・フィッツオスバーン」(~10710222死去)
- 1066年10月14日 00:00|イギリス| ||<即位>イギリス王「エドガ-2世」(~12.25)
- 1066年10月14日 00:00|イギリス/フランス| ||<ヘイスティングスの戦い>イングランドに上陸したノルマン公ギヨーム(ウィリアム)が、南下したイングランド王ハロルド2世軍とヘイスティングスの北方セックで戦い、圧勝

1100迄 (1445件)

- 1066年12月11日-01:00|フランス| |||<死去>ブルターニュ公兼レンヌ公・レンヌ伯「コナン2世」
- 1066年12月11日-01:00|フランス| |||<就任>レンヌ伯「Geoffrey2世Grenonat」(~1082年)
- 1066年12月11日-01:00|フランス| |||<即位>ブルターニュ公「アウフォーズ」アラン3世とベルト・ド・ブワの1人娘(~10720819死去),「オル2世」コルヌアイ伯アラン・カニアルとジュディット・ナントの長子(~1072年退位~10840413死去)
- 1066年12月11日-01:00|フランス| |||<即位>レンヌ女公・レンヌ伯「Hawise(Geoffrey2世の対立公)」(~10720819死去)
- 1066年12月25日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<制定>イギリス王領ガーンジー島
- 1066年12月25日 00:00|イギリス| |||<即位>イギリス王「ウィリアム1世庶子/征服王」(~10870909死去59歳)
- 1066年12月25日 00:00|イギリス| |||イギリスがノルマン征服
- 1067年-05:30|インド| |||<即位>チョーラ朝国王「Athirajendra」(~1070年)
- 1067年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロド公「グレゴ・スヴァトスラウイチ」(~1067年)
- 1067年-04:00|ロシア| |||<復位>トムタラカニ公「グレゴ・スヴァトスラウイチ」(~1068年)
- 1067年-03:00|イェメン| |||<即位>スレイヒト朝スルタン「アルムカラム・アマト」(~1086年)
- 1067年-03:00|イラク| |||ハガダートにニザームイヤ学院創設される。以後セルジューク朝治下各地に同様の学院が建設
- 1067年-01:00|ドイツ| |||<死去>ヴァイマル伯・テュリンゲン辺境伯・マイン辺境伯「オットー1世」
- 1067年-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「エリク7世」戦死、「エリク8世(異教徒王)」
- 1067年-01:00|ベルギー| |||<死去>ナミュール伯「アルベール2世」
- 1067年-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯「フルク4世病気質伯」ガティネ伯ジヨフロワ2世とエルマンガルト・ダンジューの次男(~11090414死去/66歳)
- 1067年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴァイマル伯「ウルリヒ1世」(~1070年)
- 1067年-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>サンボル伯「ユーク1世」(~1070年)
- 1067年-01:00|ドイツ| |||<就任>テュリンゲン辺境伯「エハベルト2世」(~10900703死去)
- 1067年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パライン「ロトワン」(~1071年)
- 1067年-01:00|ドイツ| |||<就任>マイン辺境伯「エハベルト1世」フリースラント辺境伯リトルの次男(~10680111死去)
- 1067年-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ハルステン」ステンキルの息子(~1070年死去)
- 1067年-01:00|スペイン| |||<即位>ハタ・ハ・タイファ「Yahya ibn Abu Bakr Muhammad al-Aftas」(~1079年)
- 1067年 00:00|イギリス| |||<就任>ケント伯「ハインのオド」ハイン司教(~1088年、爵位剥奪)
- 1067年 00:00|イギリス| |||<就任>チェスター伯「Gerbod the Fleming」(~1070年)
- 1067年 00:00|イギリス| |||<就任>ノサンブランド伯「Copsi」(~同年死去)⇒「Oulf2世」(~同年)⇒「Gospatric」(~1068年)
- 1067年 07:00|メキシコ| |||存効人、トゥーラを破壊
- 1067年1月18日-07:00|オーストリア| ||大越・竜彰天嗣2年|李朝に京牢(オの一部)が入貢
- 1067年1月25日-08:00|中国| ||宋・治平4年1月8日|<死去>北宋第5代皇帝「英宗」享年36
- 1067年1月25日-08:00|中国| ||宋・治平4年1月8日|<即位>北宋第6代皇帝「神宗」(~元豊8年3月5日(1085年4月1日)死去)
- 1067年1月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・咸雍3年1月11日|高麗の興王寺完成
- 1067年2月10日-09:00|日本|滋賀県大津市|治暦3年1月10日|日吉社焼失
- 1067年5月22日-02:00|トルコ| |||<死去>東ローマ帝国皇帝(ドゥカス朝)「コンスタンティノス10世ドゥカス」
- 1067年5月22日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ皇帝「ロマノス4世ディオゲネス」カパドキアの将軍、エドゥキアと結婚し、皇位を譲られて即位(~10711024退位~1072年死去)
- 1067年7月-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー王「オラフ3世ハラルド・ソフ平和王」共同統治(~10930922没)
- 1067年9月1日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ボートウアン5世」
- 1067年9月1日-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「ボートウアン6世」Baldwin5世の息子(~10700717死去)
- 1067年11月2日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルムタシフ・アルムシャイト・ハムザー」
- 1067年11月12日-08:00|中国| ||宋・治平4年10月3日|中国・広東省潮州で地震(M6.8)、死者多数
- 1067年11月19日-04:00|アルメニア/アゼルバイジャン| |||<死去>シャッター朝国王「アブ・ル・アスワ・シャハール1世・ビン・アル・ファトル1世」
- 1067年11月19日-04:00|アルメニア/アゼルバイジャン| |||<即位>シャッター朝国王「アル・ファトル2世」(~1073年死去)
- 1068年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「シンクハヤ」(~1076年)僭主
- 1068年-05:30|インド| |||<建国>タンタ国
- 1068年-05:30|インド| |||<即位>後期チャールキヤ朝国王「ソマーシュヴァラ2世」(~1076年)
- 1068年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<死去>西カラハン朝ハン「Tamghach Khan Ibrahim」
- 1068年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>西カラハン朝ハン「Nasr Shams al-Mulk」(~1080年)
- 1068年-04:00|ロシア| |||ロシアでポーヴエツ族がはじめて大規模な襲撃
- 1068年-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ帝国皇帝(ドゥカス朝)「ロマノス4世ディオゲネス」カパドキアの将軍「エドゥキア」エドゥキアと結婚し、皇位を譲られて即位(~1071年マズィケルトの戦いでセルジューク朝に大敗し捕虜となってしまったため廃位)1072年死去
- 1068年-01:00|フランス| |||<就任>アンジュー伯(ガティネ家)フルク4世病気質伯「ガティネ伯ジヨフロワ2世とエルマンガルト・ド・アンジューの次男」(~11090414死去66歳)
- 1068年-01:00|スペイン| |||<就任>ガカソス伯「Garsenda」,「Ermengarde」,「Adelaide」Peter2世の娘たち(~1069年)
- 1068年-01:00|スペイン| |||<就任>コンフラン伯・サルターニャ伯「William1世」(~1095年死去)
- 1068年-01:00|スペイン| |||<就任>ベルカ伯「William1世」(~1094年)
- 1068年-01:00|イタリア| |||<即位>トレント司教公「Henry1世」(~1082年)
- 1068年-01:00|イタリア| |||コルシカ、フランス領に

1100迄 (1445件)

- 1068年-01:00|スペイン| |||セビリアのアバート家がコルトバを併合
 1068年 00:00|イギリス| |||<就任>ノサンバランド伯「Robert Comine」(~10690128死去)
 1068年1月1日-02:00|トルコ| |||<退位>東ローマ皇帝「エトキア・マクレンボリテサ」
 1068年1月8日-08:00|中国| ||西夏・拱化5年12月|<死去>西夏第2代皇帝「毅宗(昭英皇帝)李諒祚」病死
 1068年1月8日-08:00|中国| ||西夏・拱化5年12月|<即位>西夏第3代皇帝「惠宗(康靖皇帝)李秉常」(~天安礼定元年7月10日(1086年8月21日)死去)
 1068年1月11日-01:00|ドイツ| |||<死去>マイセン辺境伯「エハルト1世」
 1068年1月11日-01:00|ドイツ| |||<就任>マイセン辺境伯「エハルト2世」エハルト1世の息子・テューリンゲン辺境伯(~10900703死去)
 1068年2月6日-08:00|中国| ||宋・熙寧1年|北宋の神宗が熙寧(-1077年)と改元
 1068年2月6日-07:00|ベトナム| ||大越・天ケ宝象1年|李朝の聖宗李日尊が天ケ宝象と改元(-1069)
 1068年2月6日-09:00|日本| ||治暦4年1月1日|日蝕あり
 1068年3月18日-03:00|サウジアラビア/イスラエル| |||サウジアラビア、イスラエルで地震(M7.0)死者2万人
 1068年5月20日-09:00|日本| ||治暦4年4月17日|<就任>関白「藤原教通」(~承保2年9月25日)
 1068年5月22日-09:00|日本| ||治暦4年4月19日|<死去>「70代後冷泉天皇」(44歳)
 1068年5月22日-09:00|日本| ||治暦4年4月19日|<踐祚>「71代後三条天皇」7月21日即位(~10721208)
 1068年8月-04:00|アルメニア/アゼルバイジャン| |||<即位>シャッター朝国王「アスホト・ヒン・シャブール1世」(~1069.4)
 1068年8月1日-08:00|中国/韓国/朝鮮| ||北宋の熙寧1年7月|高麗へ宋の使者が来て国交が再開される
 1068年8月14日-08:00|中国| ||宋・熙寧1年7月14日|中国・河北省河間で地震(M6.5)、死者1万人
 1068年9月14日-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「フセスラフ・Bryachislavich」(~1069.4)
 1069年-04:00|ロシア| |||<即位>トムタラニ公「ロマン・スウヤスラウイチ」(~1079年)
 1069年-04:00|ロシア| |||<即位>ノゴロト公「ウレフ・スウヤスラウイチ」(~1073年)
 1069年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ホロツク公「ムスチスラフ・イジヤスラウイチ」⇒「スウヤホルク・イジヤスラウイチ」(~1071年)
 1069年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウオライニ公「ヤホルク・イジヤスラウイチ」(~1073年)
 1069年-01:00|イタリヤ| |||<死去>アマルフィ公「ジヨン2世」
 1069年-01:00|スペイン/イタリヤ| |||<死去>ウエルタニ伯「ゴトフワ3世」兼トスカナ辺境伯「ゴッフレド1世」
 1069年-01:00|ドイツ| |||<就任>オスマルク辺境伯「テド2世」(~同年死去)
 1069年-01:00|フランス| |||<就任>オマル女伯「アテレド」(~1090年)、オマル伯「ウト」アテレドの夫(~1090年)
 1069年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「ヒュー5世」(~1093年)
 1069年-01:00|フランス/イタリヤ| |||<即位>下ウリキニア公・スレト公・ウエルタニ伯「ゴトフワ4世せむし公」兼トスカナ辺境伯「ゴッフレド2世」(~10760227死去)
 1069年-01:00|イタリヤ| |||<即位>アマルフィ公「セルギウス3世」(~1073.11死去)
 1069年 00:00|モロッコ| |||ムラビト朝がモロッコのフェスを占領
 1069年1月6日-09:00|日本|京都府京都市|治暦4年12月11日|二条内裏焼失
 1069年1月26日-07:00|ベトナム| ||大越・神武1年|李朝の聖宗李日尊が神武と改元(-1072)
 1069年1月26日-07:00|ベトナム| ||大越・神武1年|ベトナムの李朝がチャンパの首都ウイジャへ侵攻
 1069年1月28日 00:00|イギリス| |||<再任>ノサンバランド伯「Gospatric」(~1072年)
 1069年1月28日 00:00|イギリス| |||<死去>ノサンバランド伯「Robert Comine」
 1069年3月18日-09:00|日本| ||治暦5年2月23日|1045年以後の荘園を停止(延久の荘園整理令)
 1069年3月26日-08:00|中国| ||西夏・乾道1年3月|西夏の惠宗が乾道と改元
 1069年3月26日-08:00|中国| ||西夏・乾道1年;宋・熙寧2年3月|西夏人が秦州に侵攻して劉溝堡を陥れ、範愿を殺害
 1069年4月-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「イジヤスラフ1世」(2期目~1073年)
 1069年4月28日-01:00|ルウェー| |||<死去>ルウェー王「マグヌス2世ハラルドソン」
 1069年5月2日-01:00|ドイツ| |||<再任>オスマルク辺境伯「テド1世」(~1075.10死去)
 1069年5月6日-09:00|日本| ||延久1年4月13日|治暦から延久に改元
 1069年5月23日-08:00|中国| ||宋・熙寧2年5月|王安石が富国法6条、強兵法2条を定めた
 1069年6月25日-09:00|日本| ||延久1年6月4日|<死去>藤原兼房(生年1001年/政治家、歌人)
 1069年11月27日-09:00|日本| ||延久1年閏10月11日|荘園整理徹底のため、記録荘園券契所(記録所)を設置
 1070年-05:30|インド/スリランカ| |||<死去>チョーラ朝国王「Virarajendra」
 1070年-05:30|インド| |||<即位>セーナ朝国王「サマンタ・セーナ」(~1095年)
 1070年-05:30|インド/スリランカ| |||<即位>チョーラ朝国王「Athirajendra」Virarajendraの息子(~同年死去)
 1070年-05:30|インド| |||<即位>チョーラ朝国王「クローツウガ1世」東チャルキア朝が併合(~1122年死去)
 1070年-05:30|インド| |||<即位>ハラ朝国王「マヒパ-2世」(~1071年)
 1070年-05:30|インド| |||<即位>ハラマ朝国王「Udayaditya」(~1093年)
 1070年-05:30|スリランカ| |||シハラ王のウイジヤハ-71世が、チョーラ王朝をランカ島から追放
 1070年-03:30|イラン| |||<即位>カクイド朝アミール「Ali」(~1095年死去)
 1070年-03:30|イラン/シリア/アラブ| |||セルジューク朝がシリアのアレッポを奪取し小アジア征服に着手
 1070年-02:00|シリア/アラブ| |||トリポリのアッタウラがファーティマ朝からの独立を宣言、以後アンマル家が同地に独立政権(~1109)
 1070年-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「ハルステン」
 1070年-01:00|ドイツ| |||<就任>ウァイマル伯「ウルヒ2世」(~1120513、ウァイマル伯家の男系が断絶、伯領はアーデルハイト・フォ

1100迄 (1445件)

ン・オラミュンデ (オットー1世の娘) を介して、ライン宮中伯ジークフリート・フォン・ハルシュテット (アスカニエン家) に渡った

1070年-01:00|フランス| |||<就任>サンポル伯「ギ-1世」 (~1083年死去) ユーク1世の子

1070年-01:00|クロアチア| |||<就任>スラヴォニア・パン「トミル・スラヴォニール」 (~1075年)

1070年-01:00|クロアチア| |||<就任>ホルツツァ伯「タリツィオ」

1070年-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「Anund Gardske」 (~1075年)

1070年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<即位>ハインリッヒ大公「ヴェルフ1世」 (~1077年公国を召し上げられ、ローマ王の直接支配となった)

1070年1月15日-08:00|中国| ||宋・熙寧2年12月|宋が保甲法を施行し、王安石を宰相とする

1070年2月14日-08:00|中国| ||契丹・咸雍6年|遼、ふたたび重定条例を公布

1070年3月6日-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<死去>イストリア辺境伯・カニオラ辺境伯「Ulric1世」

1070年3月6日-01:00|スロベニア| |||<就任>カニオラ辺境伯「Poppo2世」 (~1098年死去)

1070年3月6日-01:00|フランス| |||<即位>ロレーヌ (ロートリンゲン) 公「ティエリ2世」 (~11150123)

1070年3月21日-09:00|日本| ||延久2年2月7日|絹布の制が定められる

1070年4月14日-08:00|中国| ||宋・熙寧3年3月|宋は科挙について改正/文科においては、詩文の問題を大幅に縮小し、経書の内容的理解とそれの現実政治に対する実践を論文に纏める能力を問う進士科1本に統一

1070年5月9日-09:00|日本|滋賀県大津市|延久2年3月26日|比叡山総持院焼失

1070年7月14日-01:00|スペイン| |||レオン王アルフォンソ6世が、カスティリア王サンチョ2世を破る

1070年7月17日-01:00|フランス| |||<死去>エノー伯「ボートゥアン1世」

1070年7月17日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ボートゥアン6世」

1070年7月17日-01:00|フランス| |||<就任>エノー伯「アルヌール」 (~10710222死去)

1070年7月17日-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「アルヌール3世」 Baldwin6世の息子 (~10710222死去)

1070年11月19日-09:00|日本|京都府京都市東山区|延久2年10月14日|祇園社感神院焼亡

1070年11月25日-09:00|日本| ||延久2年10月20日|23日にかけて山城・大和で地震が連続。堂舎の多くが倒壊

1071年-05:30|インド| |||<即位>セーナ朝国王「ヘマント・セナ」 (~1097年)

1071年-05:30|インド| |||<即位>ハラ朝国王「シュラハ-ラ」 (~1072年)

1071年-02:00|トルコ| |||<即位>サルトキット 君主「Saltuk1世」 (~1102年)

1071年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェネツィア共和国第31代ドージェ (元首)「トメニコ・セルヴァ」 (~1084年)

1071年-01:00|フランス| |||<就任>ホルティエ伯「ギョーム7世」 ギョーム6世の息子 (~1126年)

1071年-01:00|イタリア| |||ルッゾエロにより、カナーヤ陥落

1071年-01:00|イタリア| |||ロベルト・グイスカルドにより、ハリー陥落

1071年 00:00|イギリス| |||<就任>初代チェスター伯「ヒュー・ダウランシュ」 (~11010727死去)

1071年1月18日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガレ伯「ヌノ・メンデス」

1071年1月18日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガレ伯「Sisnando Davidiz」 (~10910825死去)

1071年2月2日-09:00|日本|岩手県|延久2年12月30日|下野守源義家、陸奥守源頼俊を援助し、陸奥の賊藤原基通を降伏させる

1071年2月3日-08:00|中国| ||西夏・天賜礼盛国慶1年|西夏の恵宗が天賜礼盛国慶 (-1074年) と改元

1071年2月22日-01:00|フランス| |||<死去>エノー伯「アルヌール」

1071年2月22日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「アルヌール3世」

1071年2月22日-01:00|フランス| |||<就任>エノー伯「ボートゥアン2世」 (~1098年死去)

1071年2月22日-01:00|フランス/ベルギー| |||<就任>フランドル伯「ロベ-ル1世」 Baldwin5世の息子 (~10931013死去)

1071年2月22日 00:00|イギリス| |||<死去>ウエセックス伯「ウィリアム・フィッツオズバーン」

1071年4月16日-01:00|イタリア| |||<就任>シリア伯「ルッゾエロ1世」シリア全島を占領 (~11010622死去)

1071年4月16日-01:00|イタリア/ルウェー| |||ノルマン軍がハリーのビザンティン軍を破る/ビザンツの南イタリア支配に終止符が打たれる

1071年5月22日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ皇帝「ミカエル7世」ウーガス「パレノ」 (4分の1を失った)「コンスタンティノス10世」ドゥカスとエウトキア・マクレドニヤの子。ロマノス4世「イオゲネス」がマンスイクルトの戦いでセルジューク朝に大敗し、ロマノス自身も捕虜となってしまうため、エウトキアは夫を廃して息子のシエルを皇帝として即位させた (~10780324退位~1090年死去)

1071年6月1日-09:00|日本| ||延久3年5月|<任命>鎮守府将軍「清原貞衡」 (~不詳)

1071年8月19日-02:00|トルコ| |||マンスイクルトの戦いで、セルジューク朝軍がロマノス4世のビザンティン帝国軍を撃破

1071年8月26日-02:00|トルコ| |||トルコ東部、マラズキルトの戦いで、セルジューク朝軍がビザンチン軍を破り、ビザンチン皇帝ロマノス4世「イオゲネス」を捕虜としアナトリアにトルコ系のダニシュメント朝成立 (~1177)

1071年10月24日-02:00|トルコ| |||<退位>東ローマ皇帝「ロマノス4世」イオゲネス (~1072年死去)

1071年10月26日-08:00|中国| ||宋・熙寧4年10月|宋で暮役法実施

1072年-05:30|インド| |||<即位>ハラ朝国王「ラマハ-ラ」 (~1126年)

1072年-05:30|インド| |||<復位>東チャルキヤ朝君主「Vijayaditya6世」 (~1075年)

1072年-04:00|アルメニア/アゼルバイジャン| |||<即位>シャッター朝 (アニ) 国王「マヌチル」 (~1118年)

1072年-02:00|ブルガリア| |||<即位>ブルガリア帝国皇帝 (反乱中) 皇帝「ヒョートル3世」 (~12月)

1072年-02:00|トルコ| |||<即位>メンジューク君主「Mengujek Gazi」 (~1118年)

1072年-02:00|エジプト/アルメニア| |||ファティマ朝のワズィールにアルメニア軍団長ハトルが就く

1072年-01:00|クロアチア/トルコ| |||<就任>ビザンチンのラゴザ総督「ウイター・ヴェントラノ」 (~1114年)

1072年-01:00|スペイン| |||<廃位>ガルシア王「ガルシア2世」

1072年 00:00|イギリス| |||<死去>デハイバ-ス王「マダット・アブ・ウエイン」

1100迄 (1445件)

- 1072年 00:00|イギリス| |||<就任>ノルマンランド伯「Waltheof」(~1075年)
- 1072年 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン伯「Waltheof」(~10760531死去)
- 1072年 00:00|イギリス| |||<即位>デハイバース王「リス・アプ・カエイン」(~1078年死去)
- 1072年1月-01:00|スペイン| |||<即位>レオン国王「サンチョ2世」カスティリア王(~10721007死去)
- 1072年1月-01:00|スペイン| |||<廃位>レオン国王「アルフォンソ6世」兄弟により
- 1072年1月23日-09:00|日本| ||延久4年|<制定>延久宣旨栞
- 1072年1月23日-08:00|中国| ||宋・熙寧5年|宋で一連の王安石改革諸法が施行、市易法、保馬法、方田均税法を行う
- 1072年2月1日-07:00|ベトナム| ||大越・太寧1年1月10日|<死去>李朝大瞿越第3代皇帝「聖宗李日尊」
- 1072年2月1日-07:00|ベトナム| ||大越・太寧1年1月10日|<即位>李朝大瞿越第4代皇帝「仁宗李乾徳」(~11280115死去)太寧と改元(-1076)
- 1072年2月7日 00:00|アイルランド| |||<死去>アイルランド 上王「デアマイト・マック・ド・ンチャダ・マイ」
- 1072年2月7日 00:00|アイルランド| |||<即位>アイルランド 上王「テルデルバ・ウハ・マック・タイドック」(~10860714死去)
- 1072年3月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン公「オトルフ」
- 1072年3月28日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン公「マグヌス」(~11060823)
- 1072年4月21日-09:00|日本| 京都府京都市|延久4年4月|太極殿の新造が成る
- 1072年6月22日 00:00|アイルランド| |||<就任>アイルランド 連邦共和国政府(アルシング) 法話者「ゲリル・ベルグ・エルクソン」(2回目~1074年)
- 1072年8月19日-01:00|フランス| |||<死去>レス女公・レス伯「Hawise (Geoffrey2世の対立公)」
- 1072年8月19日-01:00|フランス| |||<即位>ブルージュ公「アラン4世若公」オエルク2世とアウウォースの長子(~1112年退位~11191013死去60歳)
- 1072年8月19日-01:00|フランス| |||<即位>レス公・レス伯「Hoeil1世 (Geoffrey2世の対立公)」(~1084年死去)
- 1072年10月7日-01:00|スペイン| |||<死去>レオン・カスティリア王「サンチョ2世強王」暗殺される
- 1072年10月7日-01:00|スペイン| |||<復位>カスティリア国王・レオン国王「アルフォンソ6世勇敢王」(~11090701死去)
- 1072年11月11日-09:00|日本| ||延久4年9月29日|後三条天皇が、量衡の制を定める(延久の宣旨栞)年貢などを測る基準となる公定の栞を定める
- 1072年11月24日-04:00|ジョージア| |||<死去>ゲルジア国王「バグラト4世」
- 1072年11月24日-04:00|ジョージア| |||<即位>ゲルジア国王「ジョージ2世」(~1089年退位)
- 1072年12月15日-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| |||<死去>大セルジューク朝スルターン「アルプ・アルスラーン」
- 1072年12月15日-03:30|イラン/シリア/アラブ/トルコ| |||<即位>大セルジューク朝スルターン「マリク・シャー1世」(~10921119死去)
- 1073年-05:30|インド| |||この頃ベンガルでカイウラ族がハムラ朝に反乱
- 1073年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ナスリド 朝マリク「Baha al-Dawala Tahir ibn Nasr」(~1088年)
- 1073年-04:00|アルメニア/アゼルバイジャン| |||<死去>シャッタート 朝国王「アル・ファトル2世」
- 1073年-04:00|アルメニア/アゼルバイジャン| |||<即位>シャッタート 朝国王「アル・ファトル3世」(~1075年)
- 1073年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ウラジミール・フセヴォロドウイチ」(~1078年)
- 1073年-03:30|イラン| |||<即位>ケルマン・セルジューク朝スルターン「ケルマン・シャー」(~1074年)
- 1073年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ウオリーニ公「オレグ・スヴャトスラウイチ」(~1078年)
- 1073年-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「スヴャトスラフ2世」(~10761227死去)
- 1073年-02:00|ウクライナ/バルカン/ロシア| |||<即位>チェルニヒウ公「フセヴォロド・ヤロスラウイチ」(~1076年)
- 1073年-01:00|イタリア| |||<即位>アマルフィ公「ジョン3世」(~11月アリア公ロバート・ギスカートに征服される)
- 1073年-01:00|スペイン| |||<即位>ゲラダ・タイファ「Abdallah ibn Buluggin」(~1090年ムラビト朝へ)
- 1073年-01:00|スペイン| |||<即位>マカ・タイファ「Tamim」(~1090年)
- 1073年1月18日-09:00|日本| ||延久4年12月8日|<譲位>「後三条天皇」、貞仁親王踐祚→後三条、院政開始
- 1073年2月8日-09:00|日本| ||延久4年12月29日|<即位>72代「白河天皇」貞仁親王(~10861126)
- 1073年2月10日-08:00|中国| ||宋・熙寧6年|中国で百目盛りの香時計が製作
- 1073年4月21日-01:00|バチカン| |||<死去>第156代ローマ教皇「アレクサンデル2世」
- 1073年6月15日-09:00|日本| ||延久5年5月7日|<死去>「後三条法皇」/40歳(誕生:長元7(1034)0718)第71代天皇
- 1073年6月30日-01:00|バチカン| |||<就任>第157代ローマ教皇「グレゴリウス7世」(~10850525死去)
- 1073年11月-01:00|イタリア| |||<死去>アマルフィ公「セルギウス3世」ロベルト・グイスカルトにアマルフィ公国を征服される
- 1074年-03:30|イラン| |||<即位>ケルマン・セルジューク朝スルターン「スルターン・シャー」(~1075年)
- 1074年-03:30|イラン| |||<即位>ハハント 朝太守「Shahriyar4世」(~1114年死去)
- 1074年-03:00|バーレーン| |||<即位>ウユ朝君主「Abdullah bin Ali Al Uyuni」(~1107年)
- 1074年-01:00|フランス| |||<死去>ウアロ伯「ラル74世」
- 1074年-01:00|フランス| |||<死去>ルション伯「Gausfred2世」
- 1074年-01:00|フランス| |||<就任>ウアロ伯・ウエクシオン伯「Simon」ウエクシオン・アミアン伯(~1077年退位)
- 1074年-01:00|フランス| |||<就任>ルション伯「Giselbert2世」(~1102年)
- 1074年-01:00|ドイツ| |||ケルンで大司教による船の徴発に反発した商人らが大暴動
- 1074年 00:00|イギリス| |||<死去>グウェント王「キャトウガン・アプ・モリック」
- 1074年 00:00|イギリス| |||<就任>シュルズベリー伯「ロジャート・モントゴメリー」(~1094年死去)
- 1074年1月30日-08:00|中国| ||契丹・咸雍10年|この歳、生女直の烏古迺(阿骨打の祖父、景祖)薨じる(年54)/効里鉢(烏古迺の次子、阿骨打の父、世祖)、生女直部節度使(太師)を継ぐ
- 1074年1月30日-07:00|ベトナム| ||大越・太寧3年|<即位>チャンパ王「ハリガアルマン4世」(~1080年)

1100迄 (1445件)

1074年2月2日-01:00|ドイツ| |||<即位>ハインリッヒ4世が、ザクセンの反乱貴族とゲルストウンゲンの和約を結ぶ
1074年2月7日-01:00|イタリア| |||<死去>ベネチア大公「パンドルフ9世」
1074年3月-01:00|ハンガリー| |||<即位>ハンガリー王「ゲーザ1世マガス」ベネラ1世の長男 (~10770425没)
1074年3月-01:00|ハンガリー| |||<退位>ハンガリー王「サモン」モリョートの戦いで従兄ゲーザに敗北敗走 (~1087年死去)
1074年3月2日-09:00|日本| |||延久6年2月2日|<死去>藤原頼通、廷臣、後一条・後朱雀・後冷泉天皇の摂政・関白 (生年992年)
1074年4月25日-01:00|ドイツ| |||<就任>ハーデン辺境伯「ヘルマン2世」 (~11301007死去)
1074年9月16日-09:00|日本| |||承保5年8月23日|延久から承保に改元
1074年10月25日-09:00|日本| |||承保1年10月3日|<死去>藤原彰子、一条天皇の皇后 (生年988年)
1075年-05:30|インド| |||<即位>東チャルキヤ朝君主「ラージャ・ラージャ2世」 (~1079年)
1075年-05:30|インド| |||<即位>カカティヤ朝国王「ヘー2世」 (~1110年)
1075年-05:00|キルギス/ウスベキスタン/中国| |||<即位>東カラハ朝ハン「Ebu Ali el-Hasan」 (~1102年)
1075年-03:30|イラン| |||<即位>ケルマン・セルジューク朝スルターン「フサイン・ウマル」 (~1084年)
1075年-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>ミルタス朝アミール「Rashid al-Dawla」
1075年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>ミルタス朝アミール「Jalal al-Dawla」 (~10760508死去)
1075年-01:00|クロアチア| |||<死去>クロアチア王「ペトル・クレシミル4世」
1075年-01:00|クロアチア| |||<就任>クロアチア・ハン「ペトル・スチッチ」 (~1091年)
1075年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「ユリウス」 (~1090年)
1075年-01:00|クロアチア| |||<即位>クロアチア王「デメトリウス・スヴォェミール」ペトル・クレシミル4世のいとこ (~10890420、死去)
1075年-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「ホゴン (赤王)」 (~1079死去)
1075年-01:00|スペイン| |||<即位>トクト・タイファ「Yahya2世 al-Qadir」 (~1080年)
1075年-01:00|スペイン| |||<即位>パレンシア・タイファ「Abu Bakr ibn Abd al-Aziz」 (~1085年)
1075年-01:00|パチン| |||<死去>グレゴリウス7世が「教皇令書」発布し、俗権による聖職叙任を禁止
1075年 00:00|イギリス| |||<死去>ホイス公「ブレイン・アフ・シフイン」
1075年 00:00|イギリス| |||<就任>ノサンバランド伯「William Walcher」 (~10800514死去)
1075年 00:00|イギリス| |||<即位>グウェント王「トラハン・アフ・キヤトック」 (~1081年死去)
1075年 00:00|イギリス| |||<即位>グウェント王「キヤトック・アフ・ケリフイス」 (~1081年死去)
1075年 00:00|イギリス| |||<即位>ホイス公「キヤトック・アフ・ブレイン」 (~1110年)、「ヨークス・アフ・ブレイン」 (~1103年)
1075年1月19日-08:00|中国| |||契丹・大康1年1月1日|遼の道宗が太康 (-1084年) と改元
1075年1月20日-08:00|中国| |||大理・保安31年|<讓位>前大理第11代皇帝「孝徳帝 (段思廉)」
1075年1月20日-08:00|中国| |||大理・保安31年|<即位>前大理第12代皇帝「上徳帝 (段廉義)」 (~1080年楊義貞に殺害されて王位を奪われた)
1075年1月20日-08:00|中国/ベトナム| |||大越・太寧4年; 宋・熙寧8年|李朝は李常傑を総大将として水陸から宋に侵攻し、欽州・廉州・邕州などを攻略して引揚げた/大越は有利な条件で和睦
1075年1月20日-07:00|ベトナム| |||大越・太寧4年|ベトナムで最初の科挙試験を実施
1075年2月18日-09:00|日本| |||滋賀県大津市|承保2年2月|延暦寺と園城寺の宗徒が戒壇設立を巡って抗争
1075年3月29日-01:00|オーストリア| |||<死去>シュターアマルク辺境伯「オタル」
1075年3月29日-01:00|オーストリア| |||<就任>シュターアマルク辺境伯「Adalbero」 (~1082年暗殺される)
1075年4月2日-03:00|イラク| |||<死去>バグダート・アッバース朝第26代カリフ「カーイム」
1075年4月2日-03:00|イラク| |||<即位>バグダート・アッバース朝第27代カリフ「ムクタディー」 (~10940203死去)
1075年6月10日-01:00|オーストリア| |||<死去>オーストリア辺境伯「エルスト」
1075年6月10日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア辺境伯「レオルト2世」 (~10951012死去45歳)
1075年6月19日 00:00|アイスランド| |||<就任>アイスランド連邦共和国政府 (アルシング) 法話者「賢者グナル・トルグリムソン」 (2回目 ~1076年)
1075年6月23日-01:00|ベルギー| |||<死去>リエージュ公「セドゥイン」
1075年6月23日-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「ウエルダンのヘンリー」 (~1091年)
1075年8月19日-09:00|韓国/朝鮮| |||高麗・大康1年7月5日|高麗で遼からの通告により大康元年に改元
1075年8月27日-09:00|日本| |||承保2年7月13日|<死去>河内源氏2代目棟梁・源頼義 (生年988年)
1075年10月-01:00|ドイツ| |||<死去>オスタマルク辺境伯・ラウジッツ辺境伯「テト1世」
1075年10月-01:00|ドイツ| |||<就任>オスタマルク辺境伯・ラウジッツ辺境伯「ハインリッヒ1世」 (~1103年死去)
1075年11月25日-09:00|日本| |||承保2年10月15日|<就任>関白: 藤原師実
1076年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ミンタン」 (~1090年)
1076年-05:30|インド| |||<即位>後期チャルキヤ朝国王「ウイクラマ・ティヤ6世」 (~1126年死去)
1076年-05:00|トルクメニスタン/イラン/イラク/パレスチナ| |||エルサレムがセルジューク・トルコの手に入る
1076年-02:00|ウクライナ/ベラルーシ/ロシア| |||<即位>チェルニヒウ公「ウラジミール・モノマフ」 (~1077年)
1076年-01:00|ドイツ| |||<就任>西フランク大公「コンラート4世 共治王」 (~1087年)
1076年-01:00|スペイン| |||<就任>バルセロナ伯 (バルセロナ家) 双子の兄弟「モン・ブランゲ-2世系 屑頭伯」 [「モン・ブランゲ-1世の子」] (~1082年)「モン・ブランゲ-2世」兄弟殺し伯 (~1097年) 共同統治
1076年-01:00|クロアチア| |||<就任>ホルツァー伯「ウイゼン」 (~1078年)
1076年-01:00|ドイツ| |||<就任>マイセン辺境伯「ウラチスラフ2世」 (~1089年)
1076年-01:00|フランス| |||<就任>モンペリアル伯「ティエリ1世」ルイの息子 (~11030102死去)
1076年-01:00|フランス| |||<即位>下ロランキア公「コンラート」イタリア王、ローマ王、神聖ローマ皇帝ハインリッヒ4世の次男 (~1087年)

1100迄 (1445件)

- 1076年-01:00|スペイン| |||<即位>マジヨルカ・タイフ「Ibn Aglab al-Murtada」(~1093年)
- 1076年-01:00|イタリア| |||<復位>トスカナ辺境伯「マティルデ」(~11150724死去)
- 1076年-01:00|イタリア| |||ロベルト・グイスカルドがベネチア侯国征服
- 1076年 00:00|カナ| |||ムラビト朝がカナの首都を陥落させる
- 1076年 00:00|マリ/モリタニア| |||ムラビト朝がカナ王国に攻め入り首都クビ・カを陥す/代わってツツ王国台頭
- 1076年2月8日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・大康2年|高麗が田柴科を改定し官制を改め俸禄を定める
- 1076年2月8日-09:00|日本|京都府京都市左京区|承保3年|白河天皇、法勝寺を建立、八画九重塔(高さ80m)を建てる
- 1076年2月8日-08:00|中国| ||西夏・大安1年|西夏の恵宗が大安(-1085年)と改元
- 1076年2月8日-08:00|中国| ||宋・熙寧9年|宋の呂大鈞、呂氏卿約を作成
- 1076年2月8日-08:00|中国| ||大理・上徳1年|大理国の段連義が上徳と改元
- 1076年2月8日-08:00|中国/ベトナム| ||大越・英武昭勝1年|宋・熙寧9年|ベトナムの李常傑は如月江(カ河)と富良江(紅河)で宋の水軍を徹底的に破る
- 1076年2月8日-07:00|ベトナム| ||大越・英武昭勝1年|李朝の仁宗李乾徳が英武昭勝と改元(-1085)
- 1076年2月26日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>スレート公・下ロリングア公・ヴェルダン伯「ゴトフロワ4世せむし公」兼トスカナ辺境伯「コッフレド2世」
- 1076年2月27日-01:00|フランス| |||<就任>ヴェルダン伯「マチルデ」(~1086年)
- 1076年3月21日-01:00|フランス| |||<死去>ブルゴニユ公「ロベール1世老公」
- 1076年3月21日-01:00|フランス| |||<即位>ブルゴニユ公「ユグ1世」(~1079年)
- 1076年4月28日-01:00|デンマーク| |||<死去>デンマーク王「スヴェン2世エストリクセン」
- 1076年4月28日-01:00|デンマーク| |||<即位>デンマーク王「ハラル3世」スヴェン2世の庶子(~10800417死去)
- 1076年5月8日-02:00|シリア・アラブ| |||<死去>ミルダス朝アミール「Jalal al-Dawla」
- 1076年5月8日-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>ミルダス朝アミール「Sabiq ibn Mahmud」(~1080. 6)
- 1076年5月26日-01:00|スペイン| |||<死去>バルセロナ伯「ラモン・バランゲ1世(老伯)」
- 1076年5月26日-01:00|スペイン| |||<就任>バルセロナ伯「ラモン・バランゲ2世(糸くず頭伯)」(~10821206死去),「バランゲ1世」の2世(兄弟殺し伯) (~1097年)
- 1076年5月31日 00:00|イギリス| |||<死去>ハンティントン伯「Waltheof」
- 1076年5月31日 00:00|イギリス| |||<就任>ハンティントン女伯・ノサンプトン女伯「Judith of Lens」(~1086年以降死去)
- 1076年6月4日-01:00|スペイン| |||<死去>ナバラ王「サンチョ・ガルス4世」暗殺される
- 1076年6月4日-01:00|スペイン| |||<即位>ナバラ王「サンチョ5世ラミス」アラゴン国王(~10940604死去/52歳)
- 1076年6月17日 00:00|イラン| |||<就任>イラン連邦共和国政府(アルシク)法話者「シグヴァトル・スルトン」(~1084年)
- 1076年12月13日-01:00|イタリア| |||ロベルト・グイスカルドがサレルノ占領
- 1076年12月26日-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ボレスワフ2世シュポト」⇒ポーランド王(~1079年亡命)
- 1076年12月27日-02:00|ウクライナ/バルシ/ロシア| |||<死去>キエフ大公「スヴャトスラフ2世」兼チルニヒウ公「スヴャトスラフ・ヤロスラヴィチ」
- 1076年12月27日-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「フセヴォド1世」(1期目~1077年)
- 1077年-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| |||<即位>ホラズム・シャー朝スルタン「アヌ・シュ・ケーン」(~1097年死去)
- 1077年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロド公「ケレブ・スヴャトスラヴィチ」(~10780530死去)
- 1077年-02:00|ウクライナ/バルシ/ロシア| |||<即位>チルニヒウ公「ボリス・グヤチスラヴィチ」⇒<復位>「フセヴォド・ヤロスラヴィチ」キエフ大公(~1078年)
- 1077年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルタン「スライマン・イブン・クタルミシュ」アナトリアで建国(~1086. 6死去)
- 1077年-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「イシヤスラフ1世」(3度目~10781003死去)
- 1077年-02:00|トルコ| |||カシャガリがトルコ・アラブ語辞典を著す
- 1077年-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<就任>イストリア辺境伯「Henry1世」(~1090年)
- 1077年-01:00|フランス| |||<就任>ヴァロア伯「Herbert4世」(~1080年)
- 1077年-01:00|イタリア| |||<就任>ヴェロナ辺境伯「Liutold of Eppenstein」(~10900512死去)
- 1077年-01:00|フランス| |||<就任>ピゴール伯「Raymond2世」(~1080年)
- 1077年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘルク伯「アドルフ1世」(~1082年)
- 1077年-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルンテン公「ルートホルト」(~10900512死去)
- 1077年-01:00|イタリア| |||<即位>ナポリ公「セルギウス6世」(~1107年死去)
- 1077年-01:00|フランス| |||<退位>ヴァロア伯・ヴェクサン伯「Simon」
- 1077年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<廃位>ハインリヒ大公「ヴェルム1世」公国を召し上げられ、ローマ王の直接支配となった
- 1077年-01:00|ドイツ/オーストリア| |||<復位>ハインリヒ大公「ハインリヒ8世」ローマ皇帝ハインリヒ3世の息子(⇒1084年ローマ皇帝ハインリヒ4世~1096年)
- 1077年-01:00|イタリア| |||コルシカ、ヒサ領に
- 1077年-01:00|イタリア| |||ロベルト・グイスカルドがサレルノ侯国征服
- 1077年1月25日-01:00|ドイツ/バチアン/イタリア| |||カノッサの屈辱/ドイツ国王ハインリヒ4世が、教皇グレゴリウス7世による教会破門の許しを乞うためイタリアの北部カノッサに赴き、カノッサ城の門前、雪の中に裸足で3日間立ちつくす
- 1077年1月27日-08:00|中国| ||大理・広安1年|大理国の段連義が広安(-1080年)と改元
- 1077年1月27日-01:00|ドイツ/バチアン| |||ドイツ国王ハインリヒ4世が教皇グレゴリウス7世から破門撤回をとりつける
- 1077年3月2日-09:00|日本|福岡県福岡市東区|承保4年2月5日|香椎宮焼失
- 1077年3月14日-09:00|日本| ||承保4年2月17日|<死去>源師房、平安時代の公卿、歌人(生年1008年)

1100迄 (1445件)

- 1077年3月15日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア| |||<即位>フランク・ローマ帝国対立皇帝・ドイツ王「ルトルフ・フォン・ラインフェルデン」(~10801015没)
- 1077年4月11日-06:30|ミャンマー| |||<死去>パガン王朝君主「アノヤター」62歳
- 1077年4月11日-06:30|ミャンマー| |||<即位>パガン王朝君主「ソウル」アノヤターの息子(~10840421死去)
- 1077年4月25日-01:00|ハンガリー| |||<死去>ハンガリー王「ゲザ」1世マクナス
- 1077年4月25日-01:00|ハンガリー| |||<即位>ハンガリー王「ラースロ」1世聖王「ゲザ」1世の弟(~10950729没)
- 1077年6月19日-08:00|中国| ||契丹・大康3年5月26日|謀反が起こり、皇太子の耶魯幹(涅鄰の長子、順宗)が立てられる
- 1077年6月30日-08:00|中国| ||契丹・大康3年6月8日|耶魯幹、皇太子を廃され、庶人となり、上京に送られる
- 1077年9月15日-09:00|日本| ||承保4年8月26日|<死去>良子内親王(生年1030年/皇族、伊勢斎宮)
- 1077年10月5日-09:00|日本|京都府京都市中京区|承保4年9月16日|陽明門院禎子内親王の御所・三条東洞院焼亡
- 1077年11月27日-01:00|イタリア| |||<死去>ベネチア大公「ランドルフ」6世→ベネチア教皇領に
- 1077年12月5日-09:00|日本| ||承暦1年11月17日|承保から承暦に改元
- 1078年-05:30|インド| |||<即位>東ガーン朝国王「アナンカ」アルマン(~1147年)
- 1078年-02:00|ウクライナ/ベラルーシ/ロシア| |||<即位>チェルニヒウ公「オレグ」・スヴャトスラフ「イチ」⇒<復位>「ウラジミール」モノマフ(~1094年)
- 1078年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ペレヤスラフリ公「ロスチスラフ」・フセヴォド「ウ」イチ(~1093年戦死)
- 1078年-01:00|ベルギー| |||<死去>ルベーン・ブラッセル伯「アンリ」2世
- 1078年-01:00|スペイン| |||<就任>アンプurias伯「Hugh」2世(~1116年死去)
- 1078年-01:00|フランス| |||<就任>マコン伯「ギヨーム」1世「ブルゴニ」伯(~1085年)
- 1078年-01:00|ベルギー| |||<就任>ルベーン・ブラッセル伯「アンリ」3世「アンリ」2世の息子(~1095年死去)
- 1078年-01:00|イタリア| |||<即位>ベネチア大公「ロベルト」・キスカート(~1081年教皇領に返上)
- 1078年 00:00|イギリス| |||<死去>デハイバース王「リス」・アフ・オウエイン
- 1078年 00:00|イギリス| |||<即位>デハイバース王「リス」・アフ・チュダール(~1093. 4死去)
- 1078年 00:00|モロッコ/スペイン| |||タンジールはアルモラヴイド帝国の一部(~1148年)
- 1078年2月15日-08:00|中国| ||宋・元豊1年|北宋の神宗が元豊(-1085年)と改元
- 1078年2月16日-09:00|日本|滋賀県大津市|承暦2年1月2日|石山寺が焼失
- 1078年3月3日-01:00|イタリア| |||<死去>カプア公「リチャード」1世
- 1078年3月3日-01:00|イタリア| |||<就任>カプア公「シヨルダン」1世(~1091. 11死去)
- 1078年3月24日-02:00|トルコ| |||<退位>東ローマ皇帝「ミハイル」7世「ウーガス」ハレ「ノ」(4分の1を失った)(~1090年死去)
- 1078年3月31日-02:00|トルコ| |||<即位>東ローマ皇帝「ニコフォロス」3世「ホタテ」アトリコン・テマの長官、小アジアで反乱を起こし、コンスタンティノポリスで起きた反乱によって退位したミハイル7世の後を継いで、皇帝として即位(~10810404退位~10811210死去)
- 1078年5月30日-04:00|ロシア| |||<死去>プスコフ公「ゲレク」・スヴャトスラフ「イチ」
- 1078年5月30日-04:00|ロシア| |||<即位>プスコフ公「スヴャトボルク」・イジヤスラフ「イチ」(~1088年)
- 1078年7月9日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>サヴォイア伯「ヒエトリ」1世「デ」・イ・サヴォイア(生年1048年)
- 1078年8月9日-01:00|イタリア/フランス| |||<就任>サヴォイア伯「アメ」・オ2世(~10800128死去)
- 1078年10月3日-02:00|ウクライナ/ベラルーシ| |||<死去>キエフ大公「イジヤスラフ」1世兼トウロフ公「イジヤスラフ」・ヤロスラフ「イチ」
- 1078年10月3日-02:00|ウクライナ/ベラルーシ| |||<即位>ウラジミール公「ウラジミール」・イジヤスラフ「イチ」(~1087年死去)
- 1078年10月3日-02:00|ウクライナ| |||<復位>ウラジミール公「ウラジミール」・イジヤスラフ「イチ」(~1085年)
- 1078年10月3日-02:00|ウクライナ| |||<復位>キエフ大公「フセヴォド」1世(2期目~10930403死去)
- 1079年-05:30|インド| |||<即位>東チャルキヤ朝君主「Vira Chola Vishnuvardhana」9世(~1102年)
- 1079年-03:30|イラン/シリア/アラブ| |||セルジューク朝軍がダマスカスに入城し、アレクソを攻略しミルダース朝が滅亡
- 1079年-03:00|イラク| |||<即位>マルワン朝国王「Nasir al-Dawla Mansur」(~1085年)
- 1079年-01:00|スウェーデン| |||<死去>スウェーデン王国国王「ホコン」(赤王)
- 1079年-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン対立大公「ベルトルト」1世(~10900518死去)
- 1079年-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン大公・東フランク大公(ロテンブルク大公)「フリド」リヒ1世(~11050721死去)
- 1079年-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「インゲ」1世(1期目~1084年退位)、「ハルステン」(2期目~1081年退位~1084年死去34歳)
- 1079年-01:00|スペイン| |||<即位>パタナ・タイア「Muhammad ibn Abu Bakr Muhammad al-Aftas」(~1093年)
- 1079年-01:00|フランス| |||<即位>ブルゴニ公「ウート」1世赤毛公「ユグ」1世の弟(~11030323)
- 1079年-01:00|ポーランド| |||<即位>ポーランド公「ウラディスワフ」1世「ヘルマン」カジミェシュ1世の息子(~11020604死去)
- 1079年-01:00|ドイツ/スイス| |||<退位>シュヴァーベン大公「ルトルフ」1世
- 1079年-01:00|ポーランド| |||<廃位>ポーランド王「ボレスワフ」2世「シュフト」ル「イ」王位を追われる
- 1079年 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Gudhfridhr hvithond Haraldsson」(Godfred 4世 “White Hand”)(~1094年)
- 1079年 00:00|マン島| |||<設立>マン島と諸島(内・外フリアー諸島、キンタイ半島を含む)の王国
- 1079年3月7日-09:00|日本|京都府京都市|承暦3年2月2日|京都大火、春日小路付近より出火、一条南、中御門北、大路以東、室町以西。源師房/藤原師輔の土御門第・高陽院など36町焼亡
- 1079年3月23日-09:00|日本|三重県伊勢市|承暦3年2月18日|伊勢大神宮内宮、外院60余棟焼失
- 1079年5月19日-09:00|日本| ||承暦3年4月16日|いろは歌全文が載った最古の文献「金光明最勝王経音義」が書かれる
- 1079年9月5日-09:00|日本|岐阜県大垣市|承暦3年8月8日|源義家が勅を蒙り美濃国、八島佐渡守源重宗、多田伊豆守源国房と青野が原で戦い大勝

1100迄 (1445件)

- 1079年10月16日-09:00|日本|岐阜県|承暦3年9月19日|源重宗が源義家に降伏
1080年-07:00|カンボジア| ||<即位>クメール王朝国王「ニハティントラウアルマン」(~1113年)、「シヤウアルマン6世」(~1107年)
1080年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| ||<即位>西カラハ朝ハン「Khidr」(~1081年)
1080年-04:30|アフガニスタン| ||<死去>ゴール朝マリク「Muhammad ibn Abbas」
1080年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>ゴール朝マリク「Qutb al-din Hasan」(~1100年死去)
1080年-02:00|トルコ| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ルベン1世」建国(~1095年死去)
1080年-01:00|フランス| ||<死去>ヴェルマントワ伯「ヘルムルト4世」
1080年-01:00|フランス| ||<就任>ヴェロア伯・ヴェルマントワ伯「オド1世(2世)狂気伯」(~1085年)
1080年-01:00|ドイツ| ||<就任>ステップンハイム伯「Stephen2世」(~1118年)
1080年-01:00|フランス| ||<就任>ビゴール伯「ヘアトリス1世」(~1095年)、「センチュール1世」(~1090年)
1080年-01:00|フランス| ||<就任>ヘルシュ伯「Geoffrey2世」(~1100.10死去)
1080年-01:00|スペイン| ||<即位>パダホス・タイファ「Fadl ibn Muhammad al-Aftas」 「Abbas ibn Muhammad al-Aftas」(~1093年)
1080年-01:00|カオチア| ||ラウ・サハエラフィツキ(エラフィティ)諸島(ジュッパナ、メゾ、カモッタ)併合
1080年 00:00|イギリス| ||<就任>ハンティントン伯・ノーサンプトン伯「Simon1世 de Senlis」(~1111年死去)
1080年1月6日-04:00|アルメニア| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「ルベン1世」(~1095年死去)
1080年1月25日-08:00|中国| ||大理・広安4年|<死去>前大理第12代皇帝「上徳帝(段廉義)」楊義貞に殺害されて王位を奪われた
1080年1月25日-08:00|中国| ||大理・広安4年|<即位>前大理第13代皇帝「上明帝(段寿輝)」(~1081年譲位)
1080年1月25日-07:00|ベトナム| ||大越・英武昭勝5年|<即位>チャンパ王「シヤウアルマン2世」(~1081年)
1080年1月26日-01:00|イタリヤ/フランス| ||<死去>サウオア伯、アスタ・モリアナ伯「アマト2世・ティサウオア」(生年1046年)
1080年1月28日-01:00|イタリヤ/フランス| ||<就任>サウオア伯「ウンベルト2世」(~11031014死去)
1080年2月29日-09:00|日本|京都府京都市|承暦4年2月6日|高陽院内裏焼亡、第72代・白河天皇、内裏に移る
1080年3月3日-09:00|日本|京都府京都市|承暦4年2月9日|藤原師実の高倉第焼亡
1080年3月8日-09:00|日本|京都府京都市|承暦4年2月14日|陽明門院御所(三条坊門室町)炎上
1080年4月17日-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「ハラル3世」
1080年4月17日-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王「クヌーズ4世聖王」スヴェン2世の庶子(~10860710死去)
1080年5月14日 00:00|イギリス| ||<死去>ノーサンハント伯「William Walcher」
1080年5月14日 00:00|イギリス| ||<就任>ノーサンハント伯「Aubrey de Coucy」(~1086年)
1080年6月25日-01:00|パチカン| ||<就任>対立ローマ教皇「クレメンス3世(ギベルト・ティラウエンナ)」(~11000908死去)
1080年10月15日-01:00|ドイツ/オーストリア/チエコ/イタリヤ| ||<死去>フランク・ローマ帝国対立皇帝・ドイツ王「ルトルフ・フォン・ラインフェルン」
1080年11月15日-09:00|日本/韓国/朝鮮| ||承暦4年10月2日|高麗の医師派遣要請を断り、以後、日朝国交が断絶
1080年12月6日-09:00|日本|京都府京都市上京区|承暦4年10月23日|東宮御所閑院焼亡
1081年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| ||<即位>西カラハ朝ハン「Ahmad」(~1089年)
1081年-04:00|ロシア| ||<即位>トムタラニ公「タウイト・イコラウイチ」(~1082年)
1081年-03:30|イラン/トルコ| ||セルジューク朝がニケアを征服
1081年-03:00|イェメン| ||<即位>ナジャーフ朝アミール「Sa'id al-Ahwal」(~1088年)
1081年-02:00|ルワンダ| ||<即位>ルワンダ王国ムミ「ギハンガ」(~1114年)
1081年-01:00|モンテネグロ/セルビア| ||<死去>ドゥクリヤ王「ミハイロ1世ウオイスラウリエウイッチ」
1081年-01:00|ドイツ| ||<就任>ヴェルテンベルク伯「コンラート1世」(~1110年)
1081年-01:00|ドイツ/オランダ| ||<就任>ユリヒ伯「ゲルハルト3世」(~1114年)
1081年-01:00|スペイン| ||<即位>トルサ・タイファ「al-Mundir 'Imad ad-Dawla」(~1090年)
1081年-01:00|モンテネグロ/セルビア| ||<即位>ドゥクリヤ王「コンスタンチン・ボディン・ミハイロウイッチ(ブルガリアのヘタル3世)」(~1091年、ヒザンチンの囚人)
1081年-01:00|スペイン| ||<即位>パダホス・タイファ「Umar ibn Muhamad al-Aftas」(~1093年)
1081年-01:00|スウェーデン| ||<退位>スウェーデン王国「ハルステン」(~1084年死去34歳)
1081年-01:00|イタリヤ| ||<退位>ベネチント大公「ロベルト・ギスカート」教皇領に返上
1081年-01:00|カオチア/フランス| ||ラウ・サハエラフィアのノルマン公国主権下(~1085年)
1081年 00:00|イギリス| ||<死去>グウィネト王「トラハン・アブ・キヤラトック」
1081年 00:00|イギリス| ||<死去>グウェント王・グリュウインク王「キヤラトック・アブ・グリフィス」
1081年 00:00|イギリス| ||<死去>ムラン伯「Hugh2世」
1081年 00:00|イギリス| ||<就任>ムラン伯「ロバート1世・ト・ホーモン」(~11180605死去)
1081年 00:00|イギリス| ||<即位>グウェント王・グリュウインク王「イェスティン・アブ・グアゴン」(~1091年)、「オウエイン・アブ・カトック」(~1113年)
1081年 00:00|イギリス| ||グウィネトをインランドが占領(~1101年)
1081年2月12日-08:00|中国| ||大理・上明1年|<譲位>前大理第13代皇帝「上明帝(段寿輝)」
1081年2月12日-08:00|中国| ||大理・上明1年|<即位>前大理第14代皇帝「保定帝(段正明)」(~1094年廃位)
1081年2月12日-08:00|中国| ||大理・上明1年|大理国の段寿輝が上明と改元
1081年2月12日-07:00|ベトナム| ||大越・英武昭勝6年|<即位>チャンパ王「ハラマホテイイタウアルマン」(~1086年)
1081年3月22日-09:00|日本| ||永保1年2月10日|承暦から永保に改元
1081年4月1日-02:00|トルコ| ||<即位>東ローマ皇帝「アレクシオス1世コムネノス」イサキオス1世コムネノスの甥、反乱を起こしてニケフォロス

1100迄 (1445件)

- 世ホ妹イテスを退位させ、自ら皇帝となった(~11180815死去)
- 1081年4月1日-02:00|トルコ| ||<退位>東ローマ皇帝「ニコラオス3世ホ妹イテス」反乱により(~10811210死去)
- 1081年5月-01:00|アルバニア/イタリア| ||プロントをノルマン・シリア島(「ナポリ」)が占領(~1083年)
- 1081年8月6日-01:00|ドイツ/オーストリア/チェコ/イタリア| ||<即位>神聖ローマ対立皇帝「ドイツ王「ヘルマン・フォン・ザルム」(~10880928死去)ハインリヒ4世の対立王
- 1081年8月6日-01:00|ドイツ| ||<即位>ドイツ対立王「ヘルマン・フォン・ザルム」(~10880929没)
- 1081年11月1日-09:00|日本|京都府京都市中京区|永保1年9月28日|藤原師通第(四条坊門)焼亡
- 1081年12月3日-08:00|中国| ||西夏・大安6年;宋・元豊4年11月|西夏軍は銀州塞へ攻め入る/宋軍は逃走して城内に駆け込む/銀州塞は陥落し、西夏軍は更に進んで米脂城の奪回攻略
- 1082年-04:00|ロシア| ||<即位>トムタラクニ公「ウゴダリ・ロスラウイチ」(~1083年)
- 1082年-03:00|イラク| ||<即位>マスヤド朝アミール「マンスール・イブン・テュハイス」(~1086年)
- 1082年-01:00|オーストリア| ||<死去>シュターアマルの辺境伯「Adalbero」暗殺される
- 1082年-01:00|ドイツ| ||<死去>ノルマルクの辺境伯「ウド2世」
- 1082年-01:00|ベルギー-/オランダ| ||<死去>リンブルクの伯「ヴァルラム1世」
- 1082年-01:00|オーストリア| ||<就任>シュターアマルの辺境伯「オカール2世」(~11221128死去)
- 1082年-01:00|ドイツ| ||<就任>ノルマルクの辺境伯「ハインリヒ1世」(~10870627死去)
- 1082年-01:00|ドイツ| ||<就任>ベルクの伯「アドルフ2世」(~1093年)
- 1082年-01:00|ホスニア・ヘルツェゴビナ| ||<就任>ホスニア公「ステイェパン」(~1101年)
- 1082年-01:00|ベルギー-/オランダ| ||<就任>リンブルクの伯「ハインリヒ1世」(~1119年死去)
- 1082年-01:00|イタリア| ||<即位>スレート公「レイニア2世」(~1086年)
- 1082年-01:00|ニジェール| ||<即位>ソンガイ王国国王「ニタサニ」(~1101年)
- 1082年-01:00|イタリア| ||<即位>トレント司教公「Bernard2世」(~1084年)
- 1082年-01:00|アルジェリア/モロッコ| ||ムラビト朝がアルジェリアを征服
- 1082年2月-01:00|アルバニア/イタリア| ||テュラツォをシリア王国(「ナポリ」)が占領(~1084年)
- 1082年2月1日-08:00|中国| ||大理・保定1年|大理国の段正明が保定と改元(-1094)
- 1082年8月25日-09:00|日本|京都府京都市|永保2年7月29日|内裏が焼失
- 1082年12月6日-01:00|スペイン| ||<死去>バルセロナ伯「ラモン・バランゲ-2世(糸くず頭伯)」
- 1082年12月6日-01:00|スペイン| ||<就任>バルセロナ伯「ラモン・バランゲ-3世(大伯)」ラモン・バランゲ-2世の子(~11310123死去)
-)叔父のバランゲ-1世と共同統治
- 1082年12月23日-09:00|日本| ||永保2年12月2日|<死去>藤原俊家(生年1019年/公卿、歌人)
- 1083年-04:00|ロシア| ||<即位>トムタラクニ公「オレグ・スヴャトスラウイチ」(~1094年)
- 1083年-03:00|タンザニア| ||<即位>キルワ・スルタン「Ali ibn Dawud2世」(~1089年)
- 1083年-01:00|フランス| ||<死去>サンボールの伯「ギ-1世」
- 1083年-01:00|フランス| ||<就任>オセル伯・スヴェール伯「Renaud2世」(~1098年死去)
- 1083年-01:00|フランス| ||<就任>サンボールの伯「ユーク2世」(~1118年)ギ-1世の弟
- 1083年-01:00|セルビア| ||<任命>ラシア公「ブーカン」ラシア公「トリスラフ」の息子
- 1083年 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド上王「ドナルド・マクロリン」(~11210210死去)
- 1083年1月21日-09:00|日本| ||永保3年|<任命>鎮守府将軍「源義家」(~不詳)
- 1083年1月21日-08:00|中国| ||西夏・大安8年;宋・元豊6年|西夏軍は蘭州に攻撃してきた/夜、王文都は死士700人を率いて西夏軍營を襲ってこれを散々に破る
- 1083年6月2日-01:00|ドイツ/イタリア| ||ハインリヒ4世の軍がヴェル川右岸の市街を陥落させる/グロリウス7世は逃れてサンツェン城にたてこもる
- 1083年7月6日-01:00|ルクセンブルグ| ||<就任>ルクセンブルクの伯「コンラド1世」アルデンヌ伯から称号変更(~10860808死去)
- 1083年9月2日-09:00|朝鮮| ||高麗・大康9年7月18日|<即位>高麗王「順宗」(~12.5(太康9年10月23日)死去)
- 1083年10月14日-09:00|日本| ||永保3年9月|<後三年の役>清原家衡が同族の真衡と争う/源義家は真衡方につき家衡を攻める
- 1083年12月5日-09:00|朝鮮| ||高麗・大康9年10月23日|<死去>高麗王「順宗」
- 1083年12月6日-09:00|朝鮮| ||高麗・大康9年10月24日|<即位>高麗王「宣宗」(~10940617(太安10年5月2日)死去)
- 1084年-03:30|イラン| ||<即位>ケルマン・セルジューク朝スルタン「トゥーラン・シャー1世」(~1096年)
- 1084年-01:00|フランス| ||<死去>レス公・レス伯「Hoel1世(Geoffrey2世の対立公)」
- 1084年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第32代「ドージェ(元首)」「ウイターレ・ファリエル」(~1096年)
- 1084年-01:00|フランス| ||<就任>ナント伯「マチュ-2世」(~1103年)
- 1084年-01:00|スウェーデン| ||<即位>スウェーデン王国国王「フロット=スヴェン」(~1087年死去)
- 1084年-01:00|イタリア| ||<即位>トレント司教公「Adalberon」(~1106年)
- 1084年-01:00|フランス| ||<即位>レス公・レス伯「Alan2世Fergant」(~1112年)
- 1084年-01:00|スウェーデン| ||<退位>スウェーデン王国国王「インゲ1世」
- 1084年-01:00|コファフ/イタリア| ||ヴェネツィアによるダルマチアのスパラト/スピリット統治(~1105年)
- 1084年-01:00|アルバニア/イタリア| ||プロントをノルマン・シリア島(「ナポリ」)が占領(~1085年)
- 1084年2月9日-08:00|中国| ||宋・元豊7年|司馬光が「資治通鑑」を成す
- 1084年2月9日-08:00|中国| ||西夏・大安9年;宋・元豊7年|西夏軍は再び蘭州に攻めてきた/主将の李憲は固く守って度々西夏軍を撃退/西夏軍は鋒先を変えて延州、徳順軍、定西城、熙河諸寨を攻撃したが秦貴によって撃退された

1100迄 (1445件)

1084年3月15日-09:00|日本| ||応徳1年2月7日|永保から応徳に改元
1084年3月21日-01:00|ドイツ/イタリア/オーストリア/チェコ| ||<即位>神聖ローマ皇帝「ハインリヒ4世」ドイツ王兼イタリア王エンリコ4世. エンリコ3世の子 (~11051231 薨位)
1084年3月24日-01:00|バチカン| ||<就任>対立ローマ教皇「クレメン3世」 (~11000908 死去)
1084年4月21日-06:30|ミャンマー| ||<死去>パガン王朝君主「ソール」
1084年4月21日-06:30|ミャンマー| ||<即位>パガン王朝君主「チャンツター」 (~1113年 死去)
1084年5月27日-01:00|イタリア| ||ロベール・ギスカールのノルマン兵がローマ市内に入る/マルスの野地区で激戦となる
1084年6月21日 00:00|アイスランド| ||<就任>アイスランド 連邦共和国政府 (アルシング) 法話者「マルクス・スケググ・ジエイソン」 (~1107年)
1084年10月24日-09:00|日本| ||応徳1年9月22日|<死去>藤原賢子 (生年1057年、白河天皇の中宮)
1084年11月20日-01:00|イタリア| ||<死去>モンフェッラート侯「オットー2世」
1084年11月20日-01:00|イタリア| ||<即位>モンフェッラート侯「グリエルモ4世」オットー2世の長男 (~1100年 死去)
1085年-03:30|イラン/トルコ| ||この年アッバース朝のワスィール・ファラームがセルジューク朝スルタン・マリク・シャーの許可を得てクルド族のマルワン朝領を攻撃し滅ぼす
1085年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ウクライナ公「ダウイト・イゴロウイチ」 (~1086年)
1085年-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>シリア・セルジューク朝スルタン「トクトゥシュ」 (~1095年 戦死) 分割
1085年-01:00|フランス| ||<就任>ウエルムント伯「Hugh the Great」 (~11011018 死去)、ウエルムント王伯「Adelaid e」 (~1102年)
1085年-01:00|フランス| ||<就任>マコン伯「Renaud2世」ブルゴニオン伯 (~1097年 死去)、「Stephen1世」ピエンヌ伯 (~1102 死去)
1085年-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<即位>シュレースヴィヒ公「オラフ1世」デンマーク王 (~10950818 死去)
1085年-01:00|チャト| ||<即位>セワ朝国王「Hume」 (~1097年)
1085年-01:00|スペイン| ||<即位>パレンシア・タイファ「Uthman」 (~1086年)
1085年-01:00|ポーランド| ||<即位>ポメリニェ公「リュウカ・ロスラスウイチ」 (~1092年 死去)
1085年-01:00|ドイツ| ||皇帝ハインリヒ4世が「神の平和」に基づく国内平和令を布告
1085年-01:00|アルバニア/トルコ| ||プロントの東ローマ(ビザンチン) 帝国支配が回復
1085年 00:00|イギリス| ||イングランドでウィリアム1世が行った検地の結果を記録した土地台帳「ドゥームズデーブック」が作成される
1085年1月29日-08:00|中国| ||宋・元豊8年|この年、宋の司馬光。保甲・保馬・放田法をやめる
1085年1月29日-07:00|ベトナム| ||大越・広祐1年|李朝の仁宗李乾徳が広祐と改元 (-1092)
1085年1月29日-08:00|中国| ||契丹・大安1年1月1日|遼の道宗が太安 (-1094年) と改元
1085年3月7日-09:00|朝鮮| ||高麗・大安1年2月9日|遼の改元通知により高麗が大安に改元
1085年4月1日-08:00|中国| ||宋・元豊8年3月5日|<死去>北宋第6代皇帝「神宗」 [1048年04月10日生 ~] (享年36)
1085年4月1日-08:00|中国| ||宋・元豊8年3月5日|<即位>北宋第7代皇帝「哲宗」 (~元符3年1月12日 (1100年2月23日) 死去) 高太后摂政 (-1093)
1085年5月25日-01:00|バチカン| ||<死去>第157代ローマ教皇「グレゴリウス7世」 (誕生1020年)
1085年5月25日-01:00|スペイン| ||キリスト教徒がトレドを奪回し、スー・アンヌ朝を滅ぼす
1085年6月-03:30|イラン/シリア・アラブ| ||ウカイル朝シャラフがアレクサンドリアでセルジューク軍に殺害される
1085年7月17日-01:00|イタリア| ||<死去>ブツィヤ・カラブリア公「ロベルト・イル・グイスカルト」ギリシャ遠征の途中、ケファレニア島の北端アテル岬で/70歳 (誕生1015年) ノルマンの貴族で、南イタリア全域の支配権を掌握した
1085年7月17日-01:00|イタリア| ||<即位>ブツィヤ・カラブリア公「ルッジェーロ1世」ロベルトの次男 (~11110222 死去)
1085年9月20日-01:00|ドイツ| ||<死去>ロティンギア宮中伯 (エツォー家) 「ヘルマン2世」
1085年9月20日-01:00|ドイツ| ||<就任>ライン宮中伯「ハインリヒ2世」 (~1095年) ヘルマン2世の寡婦アデールハイト (ウァイマル=オラミュンテ 伯オットー1世娘) と結婚
1085年10月18日-09:00|日本| ||応徳2年9月27日|<死去>性信入道親王 (生年1005年/皇族、僧)
1085年10月23日-01:00|スペイン| ||カスティリア王アルフォンソ6世がサラハスの戦いでムーヒト朝アミール・ユースフ・イブン・タシュフィーンに敗北
1085年11月11日-09:00|日本| ||応徳2年10月21日|<死去>橘為仲 (生年1014年/公家、歌人、和歌六人党の一人)
1085年11月27日-09:00|日本| ||応徳2年11月8日|<死去>実仁親王 (生年1071年、皇族)
1086年-03:00|イェメン| ||<即位>スレイヒト朝スルタン「アル・ヒント・アマト」 (~1138年 死去)
1086年-03:00|イラク| ||<即位>マスヤド朝アミール「スイトカ1世」イブン・マンスール、アブルハサン・サイフッラ・ファクルッディーン (~1108年)
1086年-02:00|ギリシャ| ||<設立>アトスにカストモネテ修道院
1086年-02:00|ウクライナ| ||<即位>スウエニコロド公「グオタリ・ロスラスウイチ」 (~1092年~11240319 死去)
1086年-02:00|ウクライナ| ||<即位>テレボウリ公「ウアシコ・ロスラスウイチ」 (~1124年 死去)
1086年-02:00|ウクライナ| ||<復位>ウクライナ公「ヤホフ・イジャスウイチ」 => <復位>「ダウイト・イゴロウイチ」 (~1099年)
1086年-01:00|フランス| ||<就任>ウエルタン伯「Godfrey5世」Godfrey4世の甥 (~1095年)
1086年-01:00|ドイツ| ||<就任>フェルデツツ伯「Emicho」 (~1113年)
1086年-01:00|イタリア| ||<即位>スペレート公「マチタ」 (~1093年)
1086年-01:00|スペイン| ||<即位>パレンシア・タイファ「Yahya al-Qadir」 (~1092年)
1086年-01:00|スペイン| ||<即位>ムルビエロおよびサグント・タイファ「Abu ' Isa Lubbutun」 (~1092年)
1086年 00:00|イギリス| ||<就任>ノーサンブラント伯「Robert de Mowbray」 (~1095年)
1086年1月18日-08:00|中国| ||西夏・天安礼定1年|西夏4代・崇宗が即位 (-1139) 天安礼定と改元
1086年1月18日-08:00|中国| ||宋・元祐1年|北宋の哲宗が元祐 (-1094年) と改元

1100迄 (1445件)

1086年1月18日-07:00|ベトナム| ||大越・広祐2年|<即位>チャンパ王「ジヤ・インドラヴァルマン2世」(~1113年)
1086年1月18日-07:00|ベトナム| ||大越・広祐2年|李朝で科挙制度はじまる
1086年5月16日-08:00|中国| ||宋・元祐1年4月|北宋の王安石が死去
1086年5月24日-01:00|バチカン| ||<就任>第158代ローマ教皇「ウクトル3世」モンテカッシノ修道院長デジデリオ・ダ・モンテカッシノ(~10870916死去)
1086年6月-02:00|トルコ| ||<死去>ルーム・セルジューク朝スルタン「スライマン・イブ・ヌクタルミシュ」
1086年6月15日-01:00|チェコ| ||<即位>ボヘミア公「ヴラチスラフ2世」⇒ボヘミア王(~10920114死去)
1086年7月10日-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「クヌズ4世聖王」
1086年7月10日-01:00|デンマーク| ||<即位>デンマーク王「オーロフ1世飢餓王」スヴェン2世の庶子(~10950818死去)
1086年7月14日 00:00|アイルランド| ||<死去>アイルランド上王「テルテルバツハ・マック・タイツク」
1086年7月14日 00:00|アイルランド| ||<即位>アイルランド上王「ムル・オブライアン」(~11190310死去)
1086年8月1日 00:00|イギリス| ||ソルズベリーの誓いで、ウィリアム1世がイングランド封建支配を確立
1086年8月8日-01:00|ルクセンブルク| ||<死去>ルクセンブルク伯「コンラット1世」
1086年8月8日-01:00|ルクセンブルク| ||<就任>ルクセンブルク伯「ハイリッヒ3世」コンラット1世の息子(~1096年没)
1086年8月21日-08:00|中国| ||西夏・天安礼定1年7月10日|<死去>西夏第3代皇帝「惠宗(康靖皇帝)李秉常」
1086年8月21日-08:00|中国| ||西夏・天安礼定1年7月10日|<即位>西夏第4代皇帝「崇宗(聖文皇帝)李乾順」3歳(~大徳5年6月4日(1139年7月1日)死去)
1086年9月25日-01:00|フランス| ||<死去>アキテーヌ公「ギヨーム8世」
1086年9月25日-01:00|フランス| ||<即位>アキテーヌ公「ギヨーム9世」(~11270211死去)
1086年10月11日-08:00|中国| ||宋・元祐1年9月|北宋の司馬光が死去
1086年10月23日-01:00|スペイン| ||<ウラハスの戦い>レコンキスタ・スペインでイスラム連合軍がカスティール王国軍に勝利
1086年10月26日-09:00|日本| ||応徳3年9月16日|藤原通俊が後拾遺和歌集を撰進
1086年11月9日-09:00|日本|秋田県横手市|応徳3年冬|<沼柵の戦い(出羽国/秋田県横手市)>源義家、沼柵に清原家衡を攻めるが、戦況が悪化し、兵を引き上げる
1087年-03:30|イラン| ||<死去>スィヤール朝第7代国王「カイカーウス・ブン・イスクンダール・ブン・カーフ・ス・ブン・ワシムギール」
1087年-03:30|イラン| ||<即位>スィヤール朝第8代国王「ギラーン=シャー・ブン・カイカーウス」(~1090年)
1087年-02:00|ウクライナ/ハラルシ| ||<死去>ウイニコト公・トゥロフ公「ヤホルク・イジヤスラウイチ」
1087年-01:00|スウェーデン| ||<死去>スウェーデン王国国王「フロット=スヴェン」
1087年-01:00|フランス| ||<即位>下ロリキニア公「ゴドフロワ5世(4世)」(~1100年)
1087年-01:00|フランス| ||<即位>ルマンティエ公(ルマンティエ家)ロベール2世短袴公[ギヨーム・クリトン(ギヨーム3世)ロベール2世の息子](~1105年)
1087年-01:00|スウェーデン| ||<復位>スウェーデン王国国王「インゲ1世」(2期目~1105年死去)
1087年 00:00|モロッコ| ||<死去>ムラービッド朝アミール「アブー・バクル・イブン・ウマル」
1087年 00:00|イギリス| ||デハバースをボイスが占領(~1093年)
1087年1月3日-09:00|日本| ||応徳3年11月26日|<就任>摂政「藤原師実」
1087年1月3日-09:00|日本| ||応徳3年11月26日|<譲位>72代「白河天皇」上皇として院政を開始/善仁親王踐祚
1087年1月26日-09:00|日本| ||応徳3年12月19日|<即位>73代「堀河天皇」善仁親王(~11070719)
1087年2月6日-08:00|中国| ||遼の太安3年|重定条例の修正増補を行う
1087年2月6日-08:00|中国| ||西夏・天儀治平1年|西夏の崇宗が天儀治平と改元(-1089年)
1087年3月8日-09:00|日本|奈良県奈良市|応徳4年2月|僧隆禅、興福寺内に大乘院をたてる
1087年3月12日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|応徳4年2月5日|鳥羽離宮出来る
1087年3月19日-09:00|日本|京都府京都市|応徳4年2月12日|京都大火、大炊事御門以北、一条以南、西洞院以東、室町以西
1087年3月31日-09:00|日本|京都府京都市|応徳4年2月24日|京都大火、四条南、五条北、西洞院東、室町西小屋など
1087年5月11日-09:00|日本| ||寛治1年4月7日|応徳から寛治に改元
1087年5月30日-01:00|ドイツ| ||<即位>ドイツ王「コンラート」ハインリヒ4世の次子(~10980401廃位)
1087年6月9日-01:00|チェコ| ||<死去>オモウツ公「オタ1世」
1087年6月9日-01:00|チェコ| ||<就任>オモウツ公摂政「ハンガリーのユーフェミア」(~1090年)
1087年6月27日-01:00|ドイツ| ||<死去>ノルマルク辺境伯「ハインリヒ1世」
1087年6月27日-01:00|ドイツ| ||<就任>ノルマルク辺境伯「ロタル・ウト3世」(~1106年死去)
1087年7月22日-09:00|日本|京都府京都市|寛治1年6月20日|前斎宮てい子内親王居所・六条院炎上
1087年9月9日-01:00|フランス| ||<即位>ルマンティエ公「ロベール2世(ロベール3世)短袴公」(~1106年廃位)
1087年9月9日 00:00|イギリス/フランス| ||<死去>イングランド王「ウィリアム1世征服王」兼ルマンティエ公「ギヨーム2世」59歳
1087年9月16日-01:00|バチカン| ||<死去>第158代ローマ教皇「ウクトル3世」
1087年9月26日 00:00|イギリス| ||<即位>イギリス王「ウィリアム2世赤顔王」(~11000802死去)
1087年11月12日-01:00|フランス| ||<死去>ブルゴニュ伯「ギヨーム1世」
1087年11月12日-01:00|フランス| ||<就任>ブルゴニュ伯「ルノー2世」ギヨーム1世の息子(~1097年死去)
1087年12月11日-09:00|日本|秋田県横手市|寛治1年11月14日|<金沢柵の戦い>藤原清衡と源義家の連合軍が清原家衡・武衡のたてこもる秋田の金沢柵を攻略(後三年の役終結)
1087年12月19日-09:00|日本| ||寛治1年11月22日|<死去>隆姫女王(生年995年/皇族、藤原頼通の正室)
1088年-07:00|カンボジア| ||<死去>ハンマード朝スルタン「アン=ナール」
1088年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>ナスリド朝スルタン「Badr al-Dawala Abu 'l-' Abbas ibn Nasr」(~1090年)

1100迄 (1445件)

- 1088年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロト公「ムスチスラフ・ウラジミロウイチ」(~1094年)
 1088年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>トウロフ公「スヴャトホルク・インヤスラウイチ」(~1093年)
 1088年-01:00|クロアチア| |||<就任>ホルビツァ伯「ウラティナ」
 1088年-01:00|イタリア| |||<即位>アマルフィ公「ギサル2世」前サルノ王(~1089年)
 1088年-01:00|アルジェリア| |||<即位>ハンマド朝スルタン「アル=マンズル」(~1104年死去)
 1088年 00:00|イギリス| |||<爵位剥奪>ケント伯「ハユーのオト」ハユー司教
 1088年 00:00|イギリス| |||<就任>ウオリック伯「ヘンリー・ド・ホーモント」(~11190620死去)
 1088年 00:00|イギリス| |||<就任>サリ伯「ウィリアム・ド・ワレン」(~同年死去)⇒「ウィリアム・ド・ワレン」(~1101年剥奪)
 1088年3月12日-01:00|バチカン| |||<就任>第159代ローマ教皇「ウルバヌス2世」(~10990729死去)
 1088年8月13日-09:00|日本| ||寛治2年7月24日|この日以降40日間地震が続く/餓死者多数
 1088年9月28日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツ対立王「ヘルマン・フォン・ザルム」
 1088年11月26日-09:00|日本|奈良県奈良市|寛治2年10月26日|興福寺東屋焼失
 1089年-05:30|インド| |||<即位>ガハダヴァー朝国王「チャンドラデーヴァ」ガンジス中流域で建国(~1103年)
 1089年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>西カラハ朝ハン「Ya'qub Qadir Khan」(~1095年)
 1089年-04:00|ジョージア| |||<即位>グルジア国王「デビッド4世」(~1125年死去)
 1089年-04:00|アルメニア| |||<即位>ロ王「ダビデ2世」「アハス1世」(~1113年)
 1089年-04:00|ジョージア| |||<退位>グルジア国王「ジョージ2世」
 1089年-03:00|イェメン| |||<即位>ナジャフ朝アミール「Abu't-Tami Jayyash」(~1104年)
 1089年-01:00|フランス| |||<死去>トロア・モー伯・ジャン・ヌー伯「ティボ-1世」兼フワ伯・シャトル伯「ティボ-3世」
 1089年-01:00|ドイツ| |||<就任>西フランク大公「コンラート4世共治王」(~1098年)
 1089年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヴェルテンベルク伯「コンラート1世」(~1110年)
 1089年-01:00|フランス| |||<就任>シャトル伯「Stephen2世」兼フワ伯「Stephen」兼モーブワ伯「Stephen3世Henry」(~11020519死去)
 1089年-01:00|フランス| |||<就任>ジャン・ヌー伯「ウート3世」兼トロワ伯「ウート5世」ティボ-1世の息子(~1093年死去)
 1089年-01:00|イタリア| |||<就任>トスカナ辺境伯「グエルフォマティル」の夫として(~1095年)
 1089年-01:00|ドイツ| |||<就任>マイセン辺境伯「ハインリヒ1世」(~1103年死去)
 1089年-01:00|セルビア| |||<独立宣言>ラサ公「フーカン」⇒大公(~1112年)
 1089年-01:00|フランス/スペイン| |||教皇ウルバヌス2世に組織された、フランス十字軍への
 1089年3月5日-09:00|日本|奈良県奈良市|寛治3年2月5日|興福寺東金堂焼失
 1089年4月20日-01:00|クロアチア| |||<死去>クロアチア王「デメトリウス・ズヴォニミール」
 1089年4月20日-01:00|クロアチア| |||<即位>クロアチア王「ステファン2世」(~1091年7月、死去)
 1089年5月23日-09:00|日本|京都府京都市中京区|寛治3年4月23日|法興院及び積善寺焼失
 1089年11月13日-08:00|中国| ||契丹・大安5年10月9日|遼、重定条例を廃止、重熙新定条例に戻す
 1090年-06:30|ミャンマー| |||<即位>アラカン国王「ミン・ハティ」(~1103年)
 1090年-06:30|ミャンマー| |||ハカン王朝国王チャンシッターがアナンタ寺院を建立
 1090年-05:30|インド| |||<建国>ジャワワト国
 1090年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>ナスリド朝マリク「Baha al-Dawala Khalaf ibn Nasr」(~1106年)
 1090年-03:30|イラン| |||<即位>ニザリ・イスマイリ国君主「Da'i Hassan-i Sabbah」(~11240612死去)
 1090年-02:00|キリシヤ/トルコ| |||ロードス島がセルジューク朝トルコ人に占領された(~1095年)
 1090年-01:00|ドイツ/スイス| |||<就任>神聖ローマ帝国シュヴァーベン大公「ツェーリングン家」ヘルトルト2世(対立大公~1098年)
 1090年-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| |||<就任>イストリア辺境伯「Engelbert1世」(~1096年)
 1090年-01:00|フランス| |||<就任>オマル伯・モー伯「Stephen」(~1127年死去)
 1090年-01:00|チェコ| |||<即位>オモウツ公「ホレスラフ」ウラチスラフ2世の息子(~10910810死去)
 1090年-01:00|オーストリア/スロベニア| |||<即位>ケルテン公国「ハインリヒ5世」(~1122年)
 1090年-01:00|スペイン| |||<即位>トルサ・タイファ「Sulayman Sayyid」(~1115年)
 1090年-01:00|スペイン| |||ムラービト朝軍がゲラタに入城
 1090年-01:00|セルビア/コソボ| |||ラサ大公「フーカン」ビザンチンの領土を襲撃し始め、コソボを占領
 1090年2月3日-08:00|中国| ||西夏・天祐民安1年|西夏の崇宗が天祐民安(-1097年)と改元
 1090年2月3日-08:00|中国| ||宋・元祐5年|蘇頌が天文時計を設置
 1090年2月24日-09:00|日本| ||寛治4年1月22日|白河上皇、初めて熊野三山検校を置く
 1090年5月12日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<死去>ケルテン公・ヴェロナ辺境伯「ルートルト」
 1090年5月12日-01:00|オーストリア/スロベニア/イタリア| |||<即位>ケルテン公「ハインリヒ5世」兼ヴェロナ辺境伯「Henry4世」(~11221004死去)
 1090年5月18日-01:00|ドイツ/スイス| |||<死去>シュヴァーベン対立大公「ヘルトルト1世」
 1090年5月18日-01:00|ドイツ/スイス| |||<即位>シュヴァーベン対立大公「ヘルトルト2世」(~1098年、マインツの和)ルートルト1世の娘ケネと結婚
 1090年7月3日-01:00|ドイツ| |||<死去>ツェーリングン辺境伯「エケルト2世」
 1090年8月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||寛治4年8月|高麗僧の義天が「新編諸宗教蔵総録」3巻を編纂する
 1090年9月4日-03:30|イラン| |||イスマイル派布教者ハサン・サッハーフが、アラムト城に無血入城し、アサッ暗殺教団を結成
 1091年-03:30|イラン| |||この年、セルジューク朝宰相ニザーム・アルムルクが「政治の書」を著す
 1091年-02:00|ルーマニア/ロシア| |||ワキアはクマン・キプチャック連合の一部
 1091年-01:00|ドイツ| |||<就任>オルデンブルク伯「エキルマル1世」(~1108年)

1100迄 (1445件)

- 1091年-01:00|モンテカロ| |||<就任>ドゥクリヤ摂政「ジヤクウインク」(~1101年)
- 1091年-01:00|ハンガリー| |||<就任>ハンガリー王国パラタイン「ヘテル」(~?)
- 1091年-01:00|ベルギー| |||<就任>リエージュ公「オトベルト」(~1119年死去)
- 1091年-01:00|イタリヤ| |||<就任>タンクレディの息子ルッジェーロ1世シチリアを征服
- 1091年1月12日-09:00|日本| ||寛治4年12月20日|<就任>関白:藤原師実(~寛治8年3月9日)
- 1091年3月30日-09:00|日本|京都府京都市東山区|寛治5年3月8日|清水寺が焼失
- 1091年6月-01:00|スペイン| |||<即位>アルメリア・タイファ「Ahmad ben Muhammad, Mu'izz al-Dawla」(~10月ムラービト朝へ)
- 1091年6月17日-01:00|オランダ| |||<死去>ホラント伯「デイルク5世」
- 1091年6月17日-01:00|オランダ| |||<就任>ホラント伯「フロリス2世(肥満伯)」(~11210302死去)
- 1091年6月20日-09:00|日本|京都府|寛治5年6月|源義家と義綱が京都で兄弟合戦
- 1091年7月-01:00|カプア| |||<死去>カプア王「ステイェン2世」
- 1091年7月-01:00|カプア| |||<即位>カプア王「ハンガリー王ラティスラウス1世」(~10950729死去)、代理統治「アルモジュ」
- 1091年7月-01:00|マルタ/イタリヤ| |||マルタはノルマンの支配、シチリア王国の一部
- 1091年8月10日-01:00|チェコ/スロバキア| |||<死去>オモウツ公「ホレスラフ」
- 1091年8月10日-01:00|チェコ/スロバキア| |||<即位>オモウツ公「スヴァトポルク」オク1世の息子(~11070514)、「オク2世」(~1109年)
1095年頃まで幼少であったことから両人の公国は母ウワミアの統治下におかれた
- 1091年8月25日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガール伯「Sisnando Davidiz」
- 1091年8月25日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガール伯「Martim Moniz」(~10930505)
- 1091年9月-01:00|スペイン| |||ムラービト朝がセビリアのアッバード朝を滅ぼす
- 1091年9月22日-09:00|日本| ||寛治5年8月7日|山城・大和地震、京畿大地震/寺塔壊損/法成寺の仏像・建物被害
- 1091年10月28日-08:00|中国/日本| ||寛治5年;契丹・大安7年9月14日|日本国(太宰権帥藤原伊房)、鄭元・鄭心および僧応範(明範)ら二十八人を遣わし、来貢する
- 1091年11月-01:00|イタリヤ| |||<死去>カプア公「ジョルダン1世」
- 1091年11月-01:00|イタリヤ| |||<即位>カプア公「リカルド2世」(~1106年死去)
- 1092年-02:00|ウクライナ| |||<即位>スヴァニコロト公「ロスチスラフ・ウホダレウイチ」(~11240319~1128年死去)
- 1092年-02:00|トルコ| |||<即位>ルーム・セルジューク朝スルターン「クルチ・アルスラン1世」(~1107年死去)
- 1092年-01:00|ポーランド| |||<死去>ヘレムシユリ公「リュウク・ロスチスラフイチ」
- 1092年-01:00|フランス| |||<就任>ヴェイクサン伯「ルイ」フランス王フェリペ1世の息子(~1108年)
- 1092年-01:00|トイ/オランダ| |||<就任>クレフェ伯「デイトリヒ1世」(~1117年)
- 1092年-01:00|イタリヤ| |||<即位>カプア王ラド4世「リカルド2世への対立王」(~1098)
- 1092年-01:00|スペイン| |||<即位>パレンシア・タイファ「Ahmad Dja'far」(~1094年)
- 1092年-01:00|ポーランド| |||<即位>ヘレムシユリ公「ウホダレウ・ロスチスラフイチ」(~11240319死去)
- 1092年 00:00|アイルランド| |||コノトをムム(ミンスター)が占領(~1095年10月)
- 1092年1月14日-01:00|チェコ| |||<死去>ホヘミア王「ウラチスラフ2世」落馬事故で
- 1092年1月14日-01:00|チェコ| |||<即位>ブルノ公「オトルカ」コンラート1世の息子(~1097年ホヘミア公「ジエチスラフ2世」により更迭~11130327死去)
- 1092年1月14日-01:00|チェコ| |||<退位>ブルノ公「コンラート1世」(~10930906死去)
- 1092年1月20日-01:00|チェコ| |||<即位>スワトコ「リトル」コンラート1世の息子(~1099年7月~11120315、死去)
- 1092年1月20日-01:00|チェコ| |||<即位>ブルノ公「オトルカ」2世(~11151111、死去)
- 1092年1月20日-01:00|チェコ| |||<復位>ホヘミア公「コンラート1世」(~9.6死去)
- 1092年1月24日-09:00|日本|鹿児島県霧島市|寛治5年12月13日|大隅正八幡宮が焼失
- 1092年2月10日-07:00|ベトナム| ||大越・会豊1年|李朝の仁宗李乾徳が会豊と改元(-1100)
- 1092年2月24日-09:00|日本|東京都渋谷区|寛治6年1月15日|河崎基家によって渋谷城内に金王八幡宮創建(東京都渋谷)
- 1092年3月11日-01:00|アンドラ| |||<死去>ウルグエイ伯「Ermengo」4世
- 1092年3月11日-01:00|アンドラ| |||<就任>ウルグエイ伯「Ermengo」5世(~1102年Mollerussaの戦いで戦死)
- 1092年4月15日-09:00|日本|京都府京都市|寛治6年3月6日|京都大火、三条以南、五条坊門以北、東洞院東、京極西、悉く焼亡/興福寺僧徒、山城国賀茂荘民を襲い民家焼く、藤原師実の三条第など焼亡
- 1092年5月9日-09:00|日本|京都府京都市|寛治6年4月1日|前斎院佳子内親王御所(二条富小路)焼亡
- 1092年5月15日-01:00|フランス| |||フランス王フィリップ1世、妻「ヘルト・ト・ランド」と離婚し、「アンジュー伯」フルク4世の妻であった「ヘルト・ト・モンフォール」(「モンフォール伯」)シモン1世の娘)と再婚
- 1092年6月22日-08:00|中国| ||契丹・大安8年5月15日|生女直の効里鉢、薨じる(年54) 頗刺叔(烏古迺の第四子、肅宗)、継ぐ
- 1092年9月6日-01:00|チェコ| |||<死去>ホヘミア王「コンラート1世」
- 1092年9月6日-01:00|チェコ| |||<即位>ホヘミア王代行「ジエチスラフ2世」(⇒14日、王~11001222死去)
- 1092年9月7日-09:00|日本| ||寛治6年8月3日|大風。諸国に洪水・高潮の被害。伊勢神宮宝殿、四面廊など倒壊
- 1092年10月14日-03:30|イラン| |||<死去>セルジューク朝宰相「ニザーム・ムルク」ニザール派の刺客に刺殺される
- 1092年10月30日-08:00|中国/日本| ||寛治6年;契丹・大安8年9月27日|日本国、使を遣わし来貢する
- 1092年11月19日-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| |||<死去>大セルジューク朝スルターン「マリク・シャー1世」
- 1092年11月19日-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| |||<即位>大セルジューク朝スルターン「マフムド1世」(~1094.11死去)
- 1092年12月11日-09:00|日本| ||寛治6年11月10日|京で大地震/越後に大津波が押し寄せ、角田浜飛山砂山古淵が海没

1100迄 (1445件)

- 1093年-05:30|インド| |||<建国>ドゥンダールの前身国家
- 1093年-04:00|ロシア| |||<即位>スモレンスク公「ムスチスラフ・ウラジミロウイチ」(~1095年)
- 1093年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>ヘレスチエ公「ムスチスラフ・スヴァトボルクウイチ」(~10990612死去)
- 1093年-01:00|フランス| |||<死去>ジャンパニユ伯「ウート3世」兼トワ伯「ウート5世」
- 1093年-01:00|クワチア/スロベニア/イタリア| |||<就任>イストリア辺境伯「Burchard」(~1101年)
- 1093年-01:00|フランス| |||<就任>トワ伯「Hugh」(~1102年)兼ジャンパニユ伯「ユグ」ウート3世の弟(~1125年死去)
- 1093年-01:00|フランス| |||<就任>プロウアンズ伯「ジユルベルジュ」ヨフワ1世の娘(~1112年)ジエフオダゴン子爵シルベール1世と結婚
- 1093年-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘルツ伯「アドルフ3世」(~1132年)
- 1093年-01:00|フランス| |||<就任>メヌ伯「エリアス1世」(~11100711死去)
- 1093年-01:00|クワチア| |||<即位>クワチア王(反体制派)「ヘルム・スヴァチツ」(~1097年5月、死去)
- 1093年-01:00|イタリア| |||<即位>スペレート公「ヴェルナルド2世」(~1119年)
- 1093年-01:00|スペイン| |||<即位>マジョルカ・タイファ「Mubassir」(~1114年)
- 1093年 00:00|イギリス| |||<即位>イフェトは恒久的にイギリスが支配
- 1093年1月21日-01:00|フランス| |||<死去>ハル伯「ソフィー」
- 1093年1月21日-01:00|フランス| |||<就任>ハル伯「ティエリ2世(モンベリアル伯ティエリ1世)」(~11050102死去)
- 1093年1月30日-09:00|日本| ||寛治7年|出羽国で平師妙、師季が反乱を起こす。隣国の国司である源義綱の郎党藤別当、師妙を討ち取る
- 1093年1月30日-09:00|日本|山形県南陽市|寛治7年|源義綱が赤湯温泉を発見(山形県南陽市)
- 1093年1月30日-08:00|中国| ||宋・元祐8年|この年、新法党の復権
- 1093年4月 00:00|イギリス| |||<死去>デハバース王「リース・アブ・チューダー」
- 1093年4月 00:00|イギリス| |||<即位>デハバース王「Gwronwy ap Rhys」(~1093.7死去)
- 1093年4月13日-02:00|ウクライナ| |||<死去>キエフ大公「フセウ・オド1世」兼ヘレスラヴリ公「ロスチスラフ・フセウ・オドウイチ」戦死
- 1093年4月13日-02:00|ウクライナ| |||<即位>キエフ大公「スヴァトボルク2世」(~11130416死去)
- 1093年5月5日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガール伯「Raimundo(in Galicia)」(~11071001死去)
- 1093年6月1日-09:00|日本|京都府京都市北区|寛治7年5月5日|賀茂社で初めて競馬を行う。以後恒例
- 1093年7月 00:00|イギリス| |||<死去>デハバース王「Gwronwy ap Rhys」
- 1093年7月 00:00|イギリス| |||デハバースはイギリスが統治(~1135年)
- 1093年9月22日-01:00|ルウェー| |||<死去>ルウェー王「オラフ3世ハラルド・ソフ平和王」
- 1093年9月22日-01:00|ルウェー| |||<即位>ルウェー王「マグヌス3世オラフソフ裸足王」(~11030824死去)、対立王「ホコン2世マグヌソフ」(~1095年2月死去)
- 1093年9月26日-09:00|日本| ||寛治7年9月4日|<死去>馨子内親王(生年1029年/皇族、賀茂斎院、後三条天皇の中宮)
- 1093年10月9日-08:00|中国| ||宋・元祐8年9月16日|哲宗(17)の親政が始まる
- 1093年10月13日-01:00|フランス/ベルギー| |||<死去>フランドル伯「ロベール1世」
- 1093年10月13日-01:00|ベルギー/フランス| |||<就任>フランドル伯「ロベール2世」ロベール1世の息子(~11111005死去)
- 1093年10月20日-09:00|日本|奈良県吉野郡吉野町|寛治7年9月20日|金峰山宝殿焼失
- 1093年11月13日 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「マルカム3世大首領王」
- 1093年11月13日 00:00|イギリス| |||<即位>スコットランド王「トナルド3世」(1期目~10940501)
- 1094年-05:30|インド| |||<即位>ハラマラ朝国王「Naravarman」(~1130年)
- 1094年-05:30|インド| |||この頃、ジームタハーン作のベンガルの相続法論書「タヤバガ」成立
- 1094年-04:00|ロシア| |||<即位>クルスク公「イジヤスラフ・ウラジミロウイチ」(~10960906死去)
- 1094年-04:00|ロシア| |||<即位>ノヴゴロド公「タウイト・スヴァトスラウイチ」(~1095年)
- 1094年-03:00|サジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「イブン・アブール=ハシム・アル=タラフ」(~1101年)
- 1094年-03:00|ベラルーシ| |||<即位>トカロフ公「ウヤチスラフ・Iaropolkovich」(~1104年)
- 1094年-02:00|ウクライナ| |||<即位>ヘレスラヴリ公「ウラジミル・フセウ・オドウイチ」(~1113年退位)
- 1094年-02:00|ウクライナ/ベラルーシ/ロシア| |||<復位>チェルニヒウ公「オレグ・スヴァトスラウイチ」(~1097年)
- 1094年-01:00|フランス| |||<死去>トゥールズ伯「ギョーム4世」
- 1094年-01:00|フランス| |||<就任>トゥールズ伯「レイモンド6世・ド・サン・ジール」兼プロウアンズ辺境伯「レモン4世」(~11050228死去)
- 1094年-01:00|スペイン| |||<就任>ベルカ伯「William2世」(~1109年死去)、「Bernard2世」(~1118年死去)
- 1094年-01:00|スペイン| |||併合>バタス・タイファ、ムラビト朝へ
- 1094年 00:00|イギリス| |||<死去>シュルズベリー伯「ロジヤート・モントゴメリー」
- 1094年 00:00|イギリス| |||<就任>シュルズベリー伯「ヒュー・オブ・モントゴメリー」(~1098年死去)
- 1094年 00:00|マン島| |||<就任>マン王「Domhnall mac Taidc Ua Briain」(~1098年)
- 1094年1月10日-01:00|チュニジア/エジプト| |||<死去>ファーティマ朝第8代カリフ「アル=ムスタンスィル・ヒッター」
- 1094年1月10日-01:00|チュニジア/エジプト| |||<即位>ファーティマ朝第9代カリフ「アル=ムスタアリー・ヒッター」(~11011212死去)
- 1094年1月13日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|寛治7年12月24日|修理大夫・橋俊綱の伏見亭炎上
- 1094年1月19日-08:00|中国| ||大理・保定13年|<即位>大中皇帝「富有聖徳表正帝(高昇泰)」(~1095年病死)
- 1094年1月19日-08:00|中国| ||大理・保定13年|<廢位>前大理第14代皇帝「保定帝(段正明)」大理滅亡
- 1094年2月3日-03:00|イラク| |||<死去>バグダード・アッバース朝第27代カリフ「ムクタディー」
- 1094年2月3日-03:00|イラク| |||<即位>バグダード・アッバース朝第28代カリフ「ムスタヒル」(~11180806死去)
- 1094年2月3日-09:00|日本| ||寛治8年1月16日|<死去>禎子内親王(生年1013年/後朱雀天皇皇后、女院)

1100迄 (1445件)

- 1094年3月26日-09:00|日本| ||寛治8年3月8日|陸奥守源義綱が出羽国の賊を討ち、入京
 1094年3月27日-09:00|日本| ||寛治8年3月9日|<就任>関白:藤原師通(~承德3年6月28日在官中に薨御)
 1094年4月18日-08:00|中国| ||宋・紹聖1年4月|北宋の哲宗が紹聖(-1098年)と改元
 1094年5月-02:00|シリア・アラブ| ||トウトウシュがアレクソの領主アーク軍を破り、モースルを占領
 1094年5月1日 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「ダウナル2世」ドナルド3世の軍を破り王位についた(~11.12死去)
 1094年6月4日-01:00|スペイン| ||<死去>アラゴン国王・ナバラ王「サンチヨ5世」ラミレス52歳
 1094年6月4日-01:00|スペイン| ||<即位>アラゴン国王・ナバラ王「ペドロ1世」サンチヨ5世ラミレスとイザベル・デ・カールルの男子(~11040928死去36歳)
 1094年6月15日-01:00|スペイン| ||<即位>バレンシア・タイファ「エル・シット」(ロドリゴ・デ・イアス・デ・ビバル) (~1099年)
 1094年6月17日-09:00|朝鮮| ||高麗・大安10年5月2日|<死去>高麗王「宣宗」
 1094年6月17日-09:00|朝鮮| ||高麗・大安10年5月2日|<即位>高麗王「献宗」(~1095年)
 1094年9月29日-09:00|日本| ||寛治8年8月17日|白河上皇を呪詛したことにより源惟清ら配流/その弟源頼清は越前に近流
 1094年10月16日-09:00|日本| ||寛治8年9月5日|<死去>源頼房(生年1037年/公卿、右大臣、歌人)
 1094年11月-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| ||<死去>大セルジューク朝スルタン「マフムド1世」
 1094年11月-03:30|イラン/イラク/トルクメニスタン| ||<即位>大セルジューク朝スルタン「バルキヤルク」(~11041222死去)
 1094年11月12日 00:00|イギリス| ||<死去>スコットランド王「ダウナル2世」叔父のドナルド3世に暗殺される
 1094年11月12日 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「ドナルド3世」(2期目~10971008)、「Etmond mac Mail Coluim」(~1097.10死去)、対立王「Etgar mac Mail Cholui」(=>10971008王~11070108死去)
 1094年12月4日-09:00|日本| 京都府京都市中京区|寛治8年10月24日|皇居堀河殿焼失
 1094年12月23日-09:00|日本| 神奈川県鎌倉市|寛治8年11月13日|長谷寺が焼失
 1095年-05:30|インド| ||<建国>シムル国シムル州
 1095年-05:30|インド| ||<建国>スルボール国(当時はダマリと呼ばれた)
 1095年-05:30|インド| ||<即位>セーナ朝国王「ヘマンタ・セナ」ベンガル地方に建国(~1097年)
 1095年-05:00|キルギス/ウスベキスタン/中国| ||<即位>西カラハン朝ハン「Mas'ud」(~1097年)
 1095年-04:00|アルメニア| ||<死去>キリキア・アルメニア王国国王「ルーベン1世」
 1095年-04:00|アルメニア| ||<即位>キリキア・アルメニア王国国王「コンスタンティヌス1世」(~1102年死去)
 1095年-04:00|ロシア| ||<即位>スモレンスク公「イジャスラフ・ウラジミロウイチ」=>「ダウイト・スヴャトスラウイチ」(~1097年)
 1095年-04:00|ロシア| ||<即位>ムロム公「イジャスラフ・ウラジミロウイチ」(~10960906死去)
 1095年-04:00|ロシア| ||<復位>ノヴゴロド公「ムスチスラフ・ウラジミロウイチ」(~1117年)
 1095年-03:30|イラン| ||<死去>カイト朝アミール「Ali」
 1095年-03:30|イラン| ||<即位>カイト朝アミール「Garshasp2世」(~1141年死去)
 1095年-03:30|イラン| ||アッバース朝カリフ・ムスタフヒル、ティグリス川東岸のバグダード・新市街を囲む市壁を建設
 1095年-02:00|シリア・アラブ| ||<死去>シリア・セルジューク朝スルタン「トウトウシュ」戦死
 1095年-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>シリア(アレクソ)セルジューク朝スルタン「リドワン」(~11131210死去)
 1095年-02:00|シリア・アラブ| ||<即位>シリア(ダマスカス)セルジューク朝スルタン「テュカーク」(~11040608死去)
 1095年-01:00|フランス/スペイン| ||<死去>コンフラン伯「ギョーム1世」兼サルターニャ伯「ウイリアム1世」
 1095年-01:00|ベルギー| ||<死去>ルーベン・ブラッセル伯「アンリ3世」
 1095年-01:00|フランス/スペイン| ||<就任>コンフラン伯「ギョーム2世Jordan」兼サルターニャ伯「ウイリアム2世」(~1109年死去)
 1095年-01:00|フランス| ||<就任>ピゴール伯「Bernard3世」(~1113年)
 1095年-01:00|フランス| ||<就任>モルテン伯「ギョーム」(~1106年)
 1095年-01:00|ドイツ| ||<就任>ライン宮中伯「ジークフリート1世」ヘルマン2世の寡婦アテルハイトの初婚の子(~1113年)
 1095年-01:00|ベルギー| ||<就任>ルーベン・ブラッセル伯「Godfrey1世」アンリ2世の息子(~11390125死去)
 1095年-01:00|ベルギー| ||ブイロンはリエージュ司教区の一部
 1095年1月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗で李資義の乱が起こる
 1095年1月23日-09:00|日本| ||嘉保1年12月15日|寛治から嘉保に改元
 1095年2月-01:00|ルウェー| ||<死去>ルウェー対立王「ホーコン2世」マグヌソン
 1095年2月-01:00|ルウェー| ||<即位>ルウェー対立王「スヴェイン・ハラルドソン」(~1103年)
 1095年2月8日-08:00|中国| ||大理・上治1年|<死去>大中皇帝「富有聖徳表正帝(高昇泰)」病死
 1095年2月8日-08:00|中国| ||大理・上治1年|<即位>後大理初代皇帝「中宗文安帝(段正淳)」(~1108年讓位)
 1095年2月8日-08:00|中国| ||大理・上治1年|大中国の高昇泰が上治と改元(-1096)
 1095年2月8日-08:00|中国| ||契丹・壽昌1年1月1日|遼の道宗が壽昌(-1100年)と改元
 1095年6月15日-09:00|日本| 京都府京都市上京区|嘉保2年5月11日|左大臣・源俊房の上東門第炎上
 1095年7月29日-01:00|ハンガリー/クロアチア| ||<死去>ハンガリー王「ラースロ1世聖王」兼クワチワ王「ラヂスラウ1世」
 1095年7月29日-01:00|ハンガリー| ||<即位>ハンガリー王「カールマン文人王」ゲザ1世の長男(~11160203没)
 1095年8月7日-09:00|韓国/朝鮮| ||高麗・壽昌1年7月5日|高麗・遼の壽昌年号を適用
 1095年8月18日-01:00|デンマーク| ||<死去>デンマーク王「オロフ1世飢餓王」兼シュレスヴィヒ公「オラフ1世」
 1095年8月18日-01:00|デンマーク/ドイツ| ||<即位>デンマーク王・シュレスヴィヒ公「エリック1世常善王」スヴェン2世の庶子(~11030710死去)
 1095年10月12日-01:00|オーストリア| ||<死去>オーストリア辺境伯「レヒルト2世」45歳
 1095年10月12日-01:00|オーストリア| ||<就任>オーストリア辺境伯「聖レヒルト3世」(~11361115死去63歳)
 1095年11月6日-09:00|朝鮮| ||高麗・壽昌1年10月7日|<退位>高麗王「献宗」王位を鷄林公に譲って後宮に移る(~

1100迄 (1445件)

1097. 2死去14歳)

- 1095年11月7日-09:00|朝鮮| ||高麗・壽昌1年10月8日|<即位>高麗王「肅宗」(~11051110(乾統5年10月2日)死去)
1095年11月23日-09:00|日本| ||嘉保2年10月24日|延暦寺が美濃守・源義綱の流罪を要求(初の日吉神輿入洛)。
中務丞・源頼治が防ぎ、僧徒を射殺(頼治は4年後に佐渡へ配流)
1096年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<死去>シルヴァンシャー-朝国王「Fariburz1世」
1096年-04:00|オマン| ||<設立>スファール(首都:ミルハト)
1096年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||<即位>シルヴァンシャー-朝国王「Manuchehr2世」前王の息子(~1106年死去)
1096年-03:30|イラン| ||<即位>ケルマン・セルジューク朝スルターン「イラーン・シャー」(~1101年)
1096年-03:30|イラン/イラク| ||モースルのカイル朝がセルジューク朝の攻撃を受け滅亡
1096年-01:00|ルクセンブルグ| ||<死去>ルクセンブルク伯「ハインリッヒ3世」
1096年-01:00|クロアチア/スロベニア/イタリア| ||<就任>イストリア辺境伯「Poppo2世」(~1098年死去)
1096年-01:00|イタリア| ||<就任>ヴェネツィア共和国第33代ドージェ(元首)「ウイタレ・ミキエル1世」(~1102年)
1096年-01:00|フランス| ||<就任>オーペルニュ伯「ギヨーム6世」(~1136年)
1096年-01:00|オランダ| ||<就任>ゲルデルン伯「ゲルハルト1世(ヘルト1世)」(~11290308死去)ウァッセンベルク伯ゲルハルト3世
1096年-01:00|ルクセンブルグ| ||<就任>ルクセンブルク伯「ヴィルヘルム1世」ハインリッヒ3世の兄弟(~11300123没)
1096年-01:00|イタリア| ||<即位>アマルフィ公「マリナス・セバスタス」(~1100年)
1096年-01:00|ドイツ| ||<復位>ハインリッヒ大公「ヴェルフ1世」(~1101年死去)
1096年 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガール伯「エンリケ」(~1120424)、「テレサ」(~11280624)
1096年1月28日-08:00|中国/ベトナム| ||大越・会豊5年;宋・紹聖3年|李朝のリンキエトは宋の皇帝へ和議の使節を送り、和議が成立し、再びベトナムの独立は安定
1096年4月2日-09:00|日本|大阪府大阪市住吉区|嘉保3年3月7日|住吉神社神主津守国基、氏寺津守寺を建立し供養を行う
1096年4月5日-09:00|日本|和歌山県田辺市|嘉保3年3月10日|熊野本宮が焼失
1096年4月19日-01:00|ドイツ| ||隠者ヒールルの民衆十字軍がケルンを出発(ユダヤ人虐殺/小アジアにおける大虐殺と潰走)
1096年6月23日-09:00|日本|京都府京都市|嘉保3年6月|祇園御霊会にともない田楽が大流行し、庶民から貴族まで装束を競い、2か月余り日夜踊り狂った(永長の田楽)
1096年8月15日-01:00|フランス/ドイツ| ||聖母マリア被昇天大祝日のこの日、第1回十字軍が出発/「トゥールズ伯」レイモン・「ランドル伯」・「ブワック伯」など、フランスの諸侯、騎士を中心に3万5千人が参加
1096年8月27日-09:00|日本| ||嘉保3年8月7日|<死去>てい子内親王(郁芳門院)(生年1030年/白河天皇の第一皇女、堀河天皇の准母・中宮)
1096年9月6日-04:00|ロシア| ||<死去>クルスク公・ムロム公「イジャスラフ・ウラジミロウイチ」
1096年10月1日-09:00|日本| ||嘉保3年9月13日|<死去>ばい子内親王、皇族(生年1039年)
1096年10月4日-09:00|日本| ||嘉保3年9月16日|<死去>藤原伊房(生年1076年/公卿、世尊寺流の能書家)
1096年10月13日-09:00|日本|奈良県奈良市|嘉保3年9月25日|興福寺が焼失
1096年10月21日-02:00|トルコ/フランス/ドイツ| ||民衆十字軍がニカイアへの行進途中でルーム・セルジューク朝の襲撃を受け壊滅
1096年12月11日-01:00|日本| ||嘉保3年11月24日|<永長地震(東海、東南海連動地震)>辰の刻(午前8時ごろ)、畿内(京都、難波周辺、大和)と東海地方にマグニチュード8~8.5の巨大地震が発生/京都の被害は大極殿(天皇の即位式を行う殿舎)が小破し、応天門(大内裏にあり政務を行う朝堂院の正門)の西楼が大きく傾いたが、震動の割には被害は比較的少なかった/近江国の勢多橋(瀬田の唐橋)が落ち、奈良では東大寺の巨鐘が落ち、薬師寺の回廊が倒壊、東寺や法成寺などの塔の金物が落ちて損傷/被害は東海地方で大きく、伊勢国の阿乃津が津波に襲われて民家が倒壊や流失、駿河国では神社や寺、民家など400余戸が津波で流された
1096年12月19日-09:00|日本|京都府京都市中京区|嘉保3年12月2日|播磨守・藤原顕季の高松第焼亡
1097年-05:30|インド| ||<即位>セーナ朝国王「ウイジャヤ・セーナ」(~1160年)
1097年-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| ||<死去>ホラズム・シャー朝スルターン「アヌ・シュ・テギーン」
1097年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| ||<即位>西カラハ朝ハン「Sulayman Qadir Tamghach」⇒「Mahmud Arslan Khan」(~1099年)
1097年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>クワズミヤン朝シャー「Ekinchi ibn Qochqar」⇒「Arslan Tigin Muhammad ibn Anush Tigin」(~1127年死去)
1097年-05:00|トルクメニスタン/ウズベキスタン| ||<即位>ホラズム・シャー朝スルターン「クトゥブ・ツァイーン・ムハンマド」(~1127年死去)
1097年-04:00|ロシア| ||<即位>スモレンスク公「スヴァトスラフ・ウラジミロウイチ」(~1113年)、「ヤロウルク・ウラジミロウイチ」(~1113年)共同統治
1097年-04:00|ロシア/ベラルーシ/ウクライナ| ||<即位>チェルニヒウ公「ダウイト・スヴァトスラフイチ」(~1123年)
1097年-04:00|ロシア| ||<即位>ムロム公「ヤロスラフ・スヴァトスラフイチ」(~1123年)
1097年-02:00|トルコ| ||<即位>タニシュメント朝マリク「タニシュメント・アフマド・ガースィー」建国(~1104年死去)
1097年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ウゴロト・セヴェルスキー公「オレグ・スヴァトスラフイチ」(~1115年)
1097年-02:00|ウクライナ| ||<即位>ルーツク公「ダウイト・スヴァトスラフイチ」(~1097年)
1097年-01:00|フランス| ||<死去>ブルゴニユ伯・マコン伯「ルノ2世」
1097年-01:00|フランス| ||<就任>ブルゴニユ伯・マコン伯「ギヨーム2世」ルノ2世の息子(~1125.1~11270301死去);ブルゴニユ伯「ステファン1世」ギヨーム2世の叔父(~11020527死去)
1097年-01:00|イタリア| ||<即位>パトリ公「ジョン6世」(~1120年死去)
1097年 00:00|イギリス| ||<即位>スコットランド王「エドガー」マルカム3世の息子(~11070108死去)

1100迄 (1445件)

1097年 00:00|イギリス| |||<廃位>スコットランド王「トナルド3世」
1097年1月3日-09:00|日本| ||永長1年12月17日|嘉保から永長に改元
1097年1月16日-09:00|韓国/朝鮮| |||鑄銭官を置く
1097年1月16日-08:00|中国| ||大理・天授1年|後理国の段正淳が天授と改元(-1108)
1097年2月5日-09:00|日本|京都府京都市|永長2年1月21日|京都大火、因幡堂など焼亡
1097年2月20日-09:00|日本| ||永長2年閏1月6日|<死去>源経信(生年1016年/公卿、歌人)
1097年3月13日-09:00|日本| ||永長2年閏1月27日|<死去>源頼綱(生年1025年/武将、歌人)
1097年5月-01:00|クワチア/ハンガリー| |||<死去>クワチア王「ヘタル・スヴァチチ」ハンガリー王がクワチア王国を征服し殺害、クワチア王国崩壊
1097年5月21日-02:00|ギリシャ/トルコ| |||第1回十字軍とトルコ軍がニコシアで攻防戦を開始
1097年6月19日-02:00|キプロス/トルコ| |||第1回十字軍がニコシアを占領し、ルーム朝は首都をコンヤに移す
1097年6月19日-02:00|トルコ| |||ニコシアのトルコ軍が東ローマ皇帝に降伏
1097年7月1日-02:00|トルコ/フランス| |||<トリュエラムの戦い>第1回十字軍でルーム・セルジューク朝の騎兵が襲撃するも撃退
1097年8月20日-01:00|イタリヤ| |||<死去>エステ辺境伯「アルベルト・アツォ2世」
1097年8月20日-01:00|イタリヤ| |||<就任>エステ辺境伯「フォルコ1世」(~1128年死去)
1097年9月13日-09:00|日本|京都府京都市|永長2年8月5日|暴風雨、高陽院・円乗寺など倒れ、死傷者多い
1097年9月29日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|永長2年8月21日|法皇郁芳門院のため醍醐寺無量光院を建てる
1097年10月 00:00|イギリス| |||<死去>スコットランド王「Etmond mac Mail Coluim」
1097年10月8日-09:00|日本| ||永長2年9月1日|彗星西に見ゆ
1097年10月20日-02:00|シリア・アラブ| |||第1回十字軍がアンティオキア包囲開始
1097年12月27日-09:00|日本| ||承德1年11月21日|永長から承徳に改元
1098年-05:30|インド| |||<即位>ヒサラ朝国王「イェレンガ」(~1102年)
1098年-02:00|シリア・アラブ| |||<即位>アンティオキア公「マルコ・ホ・エモン1世」ターラント公(~1110303死去)
1098年-01:00|クワチア/スロベニア/イタリヤ| |||<死去>イストリア辺境伯「Poppo2世」
1098年-01:00|フランス| |||<死去>エノー伯「ホートゥアン2世」
1098年-01:00|フランス| |||<死去>セーブル伯・スヴェール伯「Renaud2世」
1098年-01:00|スロベニア| |||<死去>カルニオラ辺境伯「Poppo2世」
1098年-01:00|クワチア/スロベニア/イタリヤ| |||<就任>イストリア辺境伯・カルニオラ辺境伯「Ulric2世」(~1107年)
1098年-01:00|フランス| |||<就任>エノー伯「ホートゥアン3世」(~1120年死去)
1098年-01:00|フランス| |||<就任>セーブル伯・スヴェール伯「William2世」(~11480821死去)
1098年-01:00|フランス| |||<就任>トゥールーズ伯「フィリップ」 「アキテーヌ公ギョーム9世」(~1101年)
1098年-01:00|フランス| |||モレルのロベール、シト修道会を設立
1098年 00:00|イギリス| |||<死去>シュールズベリー伯「ヒュー・オブ・モントゴメリー」
1098年 00:00|イギリス| |||<就任>シュールズベリー伯「ロバート・オブ・ベレム」(~1102年剥奪)
1098年 00:00|マン島/ノルウェー| |||マン島はノルウェーの領地(~11030824)
1098年2月8日-02:00|トルコ| |||アレクソのアエルグク王リトヴァンがハルックの戦いで十字軍に敗退
1098年3月7日-09:00|日本|京都府京都市|承德2年2月2日|丹波守・高階為章第(二条小路)焼亡
1098年3月9日-02:00|トルコ/フランス| |||<就任>エテッサ伯「ホートゥアン1世」十字軍指揮官「ホートゥアン・ド・ウ・ブ・ロ・ニユ」がエテッサ市を奪い、エテッサ伯領を樹立(~11001225退任)
1098年3月21日-01:00|フランス| |||フランス東部のブルゴーニュ地方出身の修道士(ベネディクト会士)モレルのロベールにより、開拓した「ブルゴーニュの森」シト(現カン・コラ・レ・シト)に、西欧中世修道会の最大派の1つ「シト修道会」が創立される/黒衣を脱いで白衣を身にまとう。日課の勉強時間を減らし、手仕事の時間を増やす。禁欲期間を増やし、卵と魚を食事から外す。僧院にはフレスコ、ステンドグラス、彫刻を使用せず
1098年3月27日-09:00|日本|京都府京都市|承德2年2月22日|京都大火/万里小路・富小路辺東西にわたり10余町焼失
1098年4月1日-01:00|ドイツ| |||<廃位>ドイツ王「コンラート」
1098年5月-01:00|ドイツ| |||<即位>ドイツ王「ハインリヒ5世」ハインリヒ4世の息子。共治(⇒11060106、フランク・ローマ帝国皇帝・イタリア王~11250523没)
1098年5月2日-09:00|日本|京都府京都市|承德2年3月28日|中御門堀川より大宮大炊御門まで焼失
1098年6月2日-02:00|シリア・アラブ/イタリヤ| |||<アンティオキア攻囲戦>第1回十字軍がアンティオキアの城内に突入し陥落。第1段階終了
1098年6月20日-09:00|日本|京都府京都市|承德2年5月19日|この日まで霖雨あり鴨川氾濫、河原人家など流失・浸水
1098年6月28日-02:00|シリア・アラブ/イタリヤ| |||第1回十字軍がモスルのケルベガを破る。第2段階終了
1098年7月2日-08:00|中国| ||宋・元符1年6月|北宋の哲宗が元符(-1100年)と改元
1098年7月4日-09:00|日本|京都府京都市|承德2年6月3日|京都霖雨洪水、鴨川氾濫し、河原の人家流失
1098年7月26日-09:00|日本|京都府京都市中京区|承德2年6月25日|藤原師実の大炊御門第焼亡
1098年8月26日-02:00|エジプト/トルコ| |||エジプトのファティマ朝カリフが、セルジューク朝からエルサレムを奪う
1098年9月3日-09:00|日本|京都府京都市|承德2年8月6日|陸奥守・源有宗第(四条坊門室町)焼亡
1099年-05:30|インド| |||<死去>ガズナ朝君主「イブラヒム」
1099年-05:30|インド| |||<即位>ガズナ朝君主「マサウト3世」(~1115年)
1099年-05:00|キルギス/ウズベキスタン/中国| |||<即位>西カラハ朝ハン「Jibraïl Arslan Khan」(~1102年)

1100迄 (1445件)

- 1099年-04:30|アガニスタン/インド | |||<死去>ガズナ朝君主「イブラヒム」
- 1099年-04:30|アガニスタン/インド | |||<即位>ガズナ朝君主「マスード3世」(~1115年)
- 1099年-02:00|イスラエル/パレスチナ | |||<就任>聖ヨハネ騎士団レクター「祝福されたジェラルム」エルサレムのラテン人の聖マリア修道院の下に設立(~11200903)
- 1099年-02:00|ウクライナ | |||<即位>ウクライニ公「ムチスラフ・スヴャトホロウイチ」(~1099年) =><復位>「ダウイド・イゴロウイチ」(~1100年)
- 1099年-02:00|ウクライナ | |||<即位>ルツク公「スヴャトスラフ・ダウイドウイチ」(~1099年) =>「ダウイド・イゴロウイチ」(~1100年ウクライニ公国領。その後分離)
- 1099年-02:00|シリア・アラブ/ヨーロッパ | |||キリスト教十字軍はシリア沿岸の港を占領(~1268年) (1102-1152及び1153~12910803、タルトゥース; 1099~1268、アンティオキヤ; 1299~13020926、ルアト島)
- 1099年-01:00|フランス | |||<就任>ホワティエ伯「ギヨーム8世」ギヨーム7世の息子(~1137年)
- 1099年-01:00|スペイン | |||<即位>パレンシア・タイア「Jimena Diaz」(~1102年)
- 1099年-01:00|フランス | |||この頃、フランスを代表する叙事詩「ローランの歌」成立
- 1099年1月24日-09:00|日本 | 長崎県壱岐市 | 承德3年 | 盛林和尚が普陀山須仙庵[坂本触、仙南寺]を開く
- 1099年1月24日-08:00|中国 | 西夏・永安1年 | 西夏の崇宗が永安(-1100年)と改元
- 1099年1月27日-09:00|日本 | 京都府京都市下京区 | 承德3年1月4日 | 六条院焼亡
- 1099年2月16日-03:00|日本 | 承德3年1月24日 | 康和南海地震 | 卯の刻(午前6時ごろ)マグニチュード8.0~8.3と推測される巨大地震が南海道、畿内を襲った/大和国興福寺では大門と回廊が倒壊、西金堂と塔が損傷/摂津国の天王寺では回廊が倒壊、土佐国では田1000余町が海に沈んだ
- 1099年6月3日-09:00|日本 | 承德3年5月12日 | 荘園の新設を禁止(康和の荘園整理令)
- 1099年6月5日-09:00|日本 | 京都府京都市 | 承德3年5月14日 | 加賀守・源季節房第(六角猪熊)焼亡
- 1099年6月12日-03:00|パレスチナ | |||<死去>パレスチナ公「ムチスラフ・スヴャトホロウイチ」
- 1099年6月12日-03:00|パレスチナ | |||<即位>パレスチナ公「ヤロスラフ・ヤホホロウイチ」(~1102年)
- 1099年7月-01:00|チェコ | |||<就任>スヴォボドフ公摂政「ボジヴォイ2世」ボジエチスラフ2世の兄弟、ホミア公ウラチスラフ2世の三男(~11001225退任~11240202死去)
- 1099年7月-01:00|チェコ | |||<退位>スヴォボドフ公「リトル」(~11120315死去)
- 1099年7月-01:00|チェコ | |||<廃位>ボボロ公「オルトジフ」ホミア公ボジエチスラフ2世により更迭(~11130327死去)
- 1099年7月-01:00|チェコ | |||ホミアがボボロとスヴォボドフを占領(~10001225)
- 1099年7月15日-02:00|イスラエル/パレスチナ | |||第1回十字軍がエルサレムを占領し、イスラム教徒やユダヤ教徒を殺戮
- 1099年7月22日-02:00|パレスチナ | |||<即位>エルサレム国王「ゴドフロワ・ブロン」ブロンヌ伯ウスタシュ2世とイド・ト・ブロンヌの息子。第1回十字軍が占領したエルサレムの守護として推される(~11000718死去40歳)
- 1099年7月29日-01:00|パチカン | |||<死去>第159代ローマ教皇「ウルバヌス2世」
- 1099年8月12日-02:00|イスラエル/パレスチナ | |||<アスカロン(の戦い)>エルサレム奪還に向かったエジプトのファティマ朝宰相アル・アッタルの軍を第一次十字軍がアスカロンで急襲し破る
- 1099年8月14日-01:00|パチカン | |||<就任>第160代ローマ教皇「パスカリス2世」(~11180121死去)
- 1099年9月3日-09:00|日本 | 承德3年8月16日 | <死去>藤原通俊(生年1047年/公卿、歌人)
- 1099年9月15日-09:00|日本 | 康和1年8月28日 | 承德から康和へとまた改元
- 1100年-12:00|ニュージーランド | |||12世紀、クック諸島のラトonga島に居住始まる
- 1100年-05:30|インド | |||<建国>シユハル国
- 1100年-05:30|インド | |||<建国>ナカール国
- 1100年-05:30|インド | |||<即位>チャンドラ朝国王「Sallakshana-Varman」(~1110年)
- 1100年-05:30|インド | |||<発足>ティルガッタムコウ国チエマン王朝
- 1100年-04:30|アガニスタン | |||<死去>コール朝マリク「Qutb al-din Hasan」
- 1100年-04:30|アガニスタン | |||<即位>コール朝マリク「イシュサルティーン・フサイン1世」(~1146年死去)
- 1100年-04:00|アルメニア | |||<即位>シャームニス「Sokmen1世」(~1111年死去)
- 1100年-02:00|ジンバブエ | |||11-15世紀、南東アフリカにジンバブエの石造建築文化
- 1100年-02:00|ウクライナ | |||<即位>ウクライニ公「ヤロスラフ・スヴャトホロウイチ」(~1118年)
- 1100年-02:00|パレスチナ | |||この年、十字軍がパレスチナのハイファ、アッカなど諸都市を攻略
- 1100年-02:00|ザンビア | |||トonga人が南部アフリカ、現ザンビア地域に移住
- 1100年-01:00|フランス | |||<死去>ダマルタン伯「Hugues1世」
- 1100年-01:00|スペイン | |||<死去>ベサル伯「Bernard2世」
- 1100年-01:00|イタリア | |||<死去>モンフェッラート侯「グリエルモ4世」
- 1100年-01:00|フランス | |||<就任>ヴェルダン伯「Theodoric」(~11050102死去)
- 1100年-01:00|フランス | |||<就任>ダマルタン伯「Pierre」(~11060913死去)
- 1100年-01:00|スペイン | |||<就任>ベサル伯「Bernard3世」(~1111年)
- 1100年-01:00|イタリア | |||<即位>モンフェッラート侯「ラニエリ1世」グリエルモ4世の子(~1135.5死去)
- 1100年-01:00|フランス/イタリア | |||ヴェネツィアとフランク王国の通商協定締結
- 1100年-01:00|ドイツ | |||ドイツの東方植民始まる。以降、フランスなどにコミューン都市生まれる
- 1100年 00:00|イギリス | |||<就任>ペンブルック伯「ギルバート・ト・クレア」(~1147年)
- 1100年 00:00|マリ | |||西アフリカでトンブクトウの町建設
- 1100年 04:00|ホリビア | |||12世紀、中央アフリカのティアワコウ衰退
- 1100年 05:00|ペルー | |||このころインカ族がクスコに定住

1100迄(1445件)

1100年 07:00|メキシコ| |||12世紀、メキシコ北部国境からアステカ人が大移動
1100年1月26日-09:00|日本| |||**康和1年12月14日**|<任命>鎮守府将軍「藤原実宗」(~不詳)
1100年2月23日-08:00|中国| |||**宋・元符3年1月12日**|<死去>北宋第7代皇帝「哲宗」24歳
1100年2月23日-08:00|中国| |||**宋・元符3年1月12日**|<即位>北宋第8代皇帝「徽宗」(~1126年1月18日退位)尚太后
攝政(-1101)
1100年7月18日-02:00|パレスチナ| |||<死去>エルサレム国王「ゴッドフリード・ブイヨン」40歳
1100年8月2日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリス王「ウィリアム2世赤顔王」狩猟中に横死/享年44(1056年生)
1100年8月5日 00:00|イギリス| |||<即位>イギリス王「ヘンリー2世碩学王」(~1135/1201死去67歳)
1100年8月8日-09:00|日本| |||**康和2年7月**|大江匡房,有職故実書「江家次第」を著わす
1100年9月8日-01:00|パチカン| |||<死去>対立ローマ教皇「クレメン3世(ギベルト・ディ・ラウエンナ)」
1100年9月8日-01:00|パチカン| |||<就任>対立ローマ教皇「テオドリック」(~1101.1投獄される)
1100年10月-01:00|フランス| |||<死去>ノルマンディー伯「Geoffrey2世」
1100年10月-01:00|フランス| |||<就任>ノルマンディー伯「Rotrou3世」(~1144/508死去)
1100年12月22日-01:00|チェコ| |||<死去>ボヘミア王「ブジスラフ2世」
1100年12月22日-01:00|チェコ| |||<即位>ボヘミア王代行「オットー2世」(~25日)
1100年12月25日-02:00|トルコ| |||<就任>エッセイッサ伯「ボートゥアン2世」(~1118/0402退任)
1100年12月25日-02:00|パレスチナ| |||<即位>エルサレム国王「ボートゥアン1世」ブローニウ伯ウスタシュ2世とイト・ド・ブローニウの息子(
~1118/0402死去60歳)
1100年12月25日-02:00|トルコ/フランス| |||<退任>エッセイッサ伯「ボートゥアン1世」
1100年12月25日-01:00|チェコ| |||<即位>ボヘミア王「ボジヴォイ2世」(1回目~1107/0514退位)